

2012 年 11 月 8 日
金融広報中央委員会

(金融経済教育研究会資料)

1. 金融広報中央委員会の活動について

(1) 組織の概要

(2) 主な活動状況

イ. 金融教育支援活動

ロ. 金融知識普及活動

ハ. 調査

2. 金融力調査の結果について

以 上

1. 金融広報中央委員会の活動について

(1) 組織の概要

<活動目的>

都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、国民に対し中立・公正な立場から、金融に関する広報または消費者教育活動を行い、もって国民経済の健全な発展に資すること。

<組織の構成>

委員 41 名（金融団体、経済団体、報道機関、消費者団体等の代表者、学識経験者、日本銀行副総裁）、参与 9 名（関係省庁局長クラス）、顧問 2 名（金融庁長官、日本銀行総裁）

会長は委員の中から選任。事務局は日本銀行情報サービス局内に設置（事務局長は日本銀行情報サービス局長、事務局員は同局金融広報課員が兼務）

<役割と活動内容>

上記の活動目的を達成するため、（１）金融に関する消費者教育・啓発活動、（２）学校における金融教育の普及推進活動、（３）調査研究活動、（４）都道府県金融広報委員会活動の支援、（５）目的を達成するために必要なその他の活動を実施。具体的には活動方針等基本計画の策定、各種刊行物・資料・ビデオ等の作成・配布、講演会・研修会等の開催、インターネットホームページによる広報、家計の金融資産に関する世論調査、各地委員会における講演会・学習会等への助成等を実施している。活動の所要経費は、委員団体の分担金および日本銀行補助金により賄われている。

— 主に、「金融教育支援」と「金融知識普及」が活動の２本柱。

<特色>

- ① 中立・公正（金融サービス側の供給側・需要側の一方に偏らない）
- ② 業界横断的なネットワーク
- ③ 草の根、地域密着

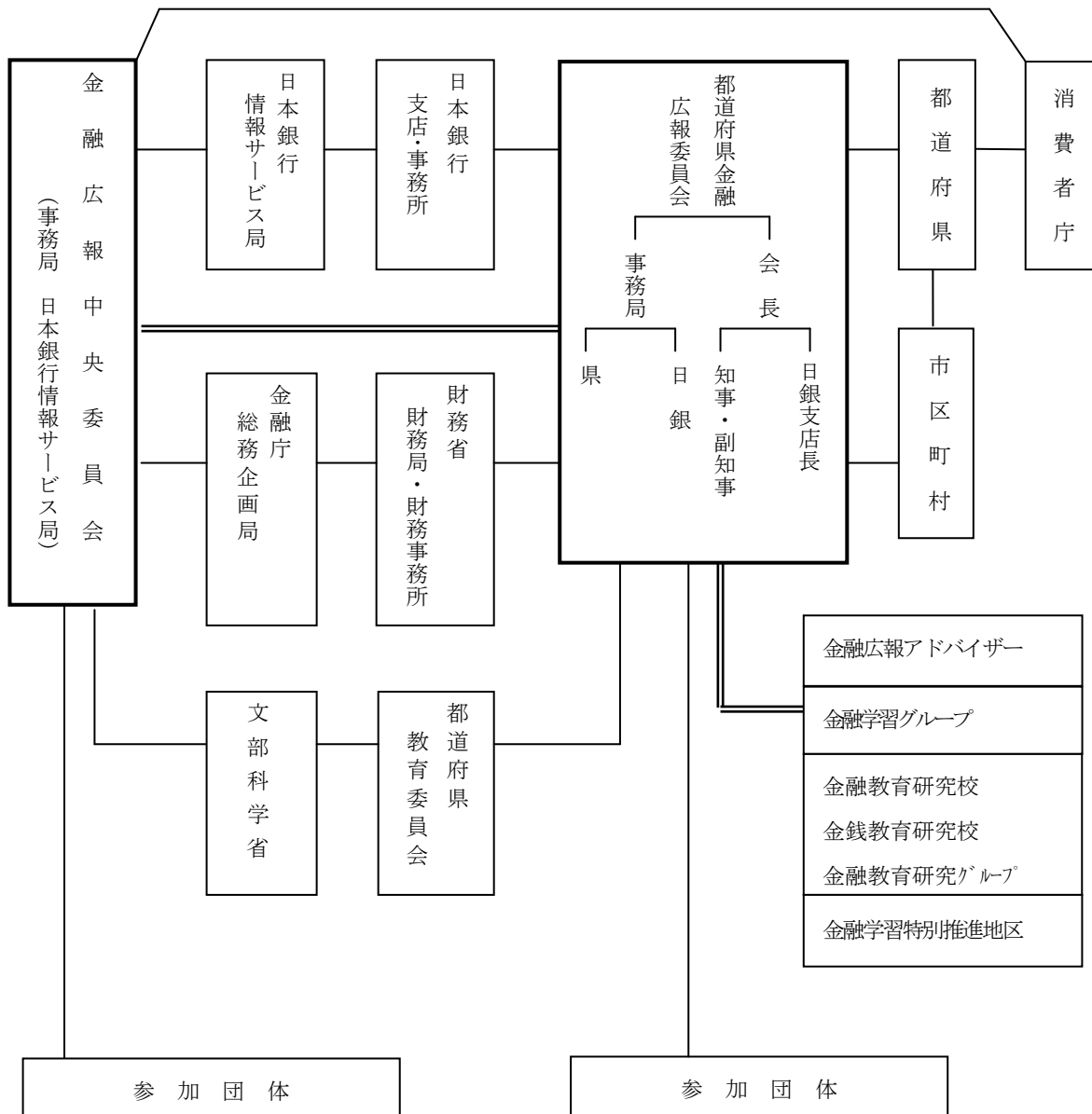
<沿革>

1946年 (昭和21年)	通貨安定対策本部を中心に「救国貯蓄運動」が始まる —— 終戦後のインフレ抑制が目的
1950年 (昭和25年)	「都道府県貯蓄推進委員会」(現・都道府県金融広報委員会)が相次いで発足
1952年 (昭和27年)	「貯蓄増強中央委員会」(現・金融広報中央委員会)設立
1958年 (昭和33年)	「貯蓄実践地区」および「実践地区推進員」を創設
1960年 (昭和35年)	「貯蓄推進員」制度を創設
1973年 (昭和48年)	「金銭教育研究校」を創設
1983年 (昭和58年)	活動の3本柱(「金融経済情報のサービス」「生活設計の勧め」「金銭教育の普及」)を決定
1988年 (昭和63年)	「貯蓄増強中央委員会」を「貯蓄広報中央委員会」に名称変更 「貯蓄実践地区」を「貯蓄生活設計普及地区」に名称変更 「貯蓄推進員」を「貯蓄生活設計推進員(一般)」に名称変更 「実践地区推進員」を「貯蓄生活設計推進員(地区)」に名称変更
1997年 (平成9年)	ホームページ開設
1999年 (平成11年)	「都道府県貯蓄推進委員会」を「都道府県貯蓄広報委員会」に名称変更
2001年 (平成13年)	「貯蓄広報中央委員会」を「金融広報中央委員会」に名称変更 「都道府県貯蓄広報委員会」を「都道府県金融広報委員会」に名称変更
2002年 (平成14年)	「貯蓄生活設計普及地区」を「金融学習グループ」に名称変更 「貯蓄生活設計推進員(一般)」を「金融広報アドバイザー」に名称変更 「貯蓄生活設計推進員(地区)」を「金融学習グループリーダー」に名称変更
2003年 (平成15年)	「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を両輪として活動を展開 金銭教育研究校制度を拡充(「金融教育研究校」および「金融教育研究グループ」を追加)
2004年 (平成16年)	金融広報中央委員会の愛称を「マネー情報 知るぽると」と決定 「金融学習特別推進地区」を創設
2005年 (平成17年)	「金融教育元年」と位置付け、学校における金融教育の推進に重点を置いた活動を展開
2007年 (平成19年)	金融広報中央委員会の愛称を「知るぽると」に変更

<活動テーマ>

- 2006年度(平成18年度)： 「みんなでつくる金融教育」
- 2007年度(平成19年度)： 「基本を多くの人に伝える」
- 2008年度(平成20年度)： 「みんなで学ぼうお金の知識」
- 2009年度(平成21年度)： 「ともに届けようお金の知識」
- 2010年度(平成22年度)： 「正しい知識を正しく伝える」
- 2011年度(平成23年度)： 「役立つ知識を、ともに伝えよう」
- 2012年度(平成24年度)： 「必要とされる情報を、効果的に伝えよう」

＜関係先とのネットワーク＞



(2) 主な活動状況

イ. 金融教育支援活動

(イ) 最近までの主な活動状況

- 2002（平成 14）年
「金融に関する消費者教育の推進に当たっての指針（2002）」発刊
- 2005（平成 17）年
「金融教育元年」と位置付け
「金融教育ガイドブック―学校における実践事例集―」発刊
- 2007（平成 19）年
「金融教育プログラム―社会の中で生きる力を育む授業とは―」発刊
- 2009（平成 21）年
「はじめての金融教育―ワークシート付き入門ガイドと実践事例集―」
発刊
- 2011（平成 23）年
DVD「見てわかる！金融教育―授業の進め方」発刊

(ロ) 足許の活動

- 教員のための金融教育セミナー
- 金融教育公開授業
- 金融教育・金銭教育研究校
- 親子のためのおかね学習フェスタ
- 作文・小論文コンクール
- 大学等における講義
- 都道府県委員会の活動支援

ロ. 金融知識普及活動

- 広報誌「暮らし塾きんゆう塾」(季刊)の発行
- 「暮らしと金融なんでもデータ」、「金融商品なんでも百科」等の各種刊行物の作成・配付
- 金融情報提供ウェブサイト「知るぽると」の運営
- 各地委員会が主催する講演会等の開催支援
- 金融広報アドバイザーの活動支援

ハ. 調査

- 「家計の金融行動に関する世論調査」(毎年)
- 「金融に関する消費者アンケート調査」
(公表：平成13年11月、15年7月、21年3月)
- 「子どもの暮らしとお金に関する調査」
(公表：平成18年5月、23年6月)
- 「金融力調査」(公表：平成24年9月)

2012年9月21日

金融力調査

知るぽると

www.shiruporuto.jp

金融広報中央委員会

(事務局 日本銀行情報サービス局内)

◆要旨	2
◆調査要綱	6
◆調査結果の概要	7
I. 将来に対するお金の備え全般について	7
II. 金融に関する考え方と行動全般について	11
III. 金利やインフレなど金融についての知識等について	13
IV. 金利や手数料支払いなどにおいて、不利な経済行動を取っていないか	16
V. どのように情報を得ているか	20
【参考1】今回調査の標本属性	24
【参考2】海外との比較	25
【参考3】属性別にみた特徴点	29
【参考4】知識、考え方、行動の関係からみた特徴点	41
◆今後の金融広報活動、金融教育からみた課題	45
◆調査結果＜調査票（単純集計データ）＞	46

【要 旨】

この調査は、金融広報中央委員会（事務局：日本銀行情報サービス局内）が、18歳以上の個人のお金や金融に関する知識や行動の特色を把握するために、実施したものである。これは、諸外国での取り組みも参考にしつつ、今後、金融広報中央委員会として、より効果的かつ効率的な活動を実施していくための基礎情報を収集することを目的としている。

この調査では、①自身の将来に対する資金的な備え、②自身の金融に関する知識や判断能力について（自己評価）、などを問う設問や、③金利やインフレなどについての基礎的な知識等を問う設問を設けた。また、④金融商品や取引に関する意思決定の根拠や、⑤金融に関する情報の入手方法に関する設問も設けた。

調査は、訪問面接方式および郵送・インターネットの複合方式により行った。日本国民の年齢層分布と適合するよう、回収した回答票（3,623 サンプル）のうち、3,531 サンプルを集計・分析対象とした（詳細は、調査要綱参照）。

<調査結果の特徴>

この調査の結果、わが国における個人のお金や金融に関する行動、考え方の特徴について、以下のように評価することができる。

- ① 「金融に関する考え方と行動」は、基本的に長期志向で堅実かつ慎重な傾向が窺われた。他方、借入や資金の運用にあたり、金融機関や金融商品の比較を行わなかったとする回答が相当数みられた。また、将来への資金的準備ができていないとする回答が相当数みられたほか、自分の年金に関する知識は限定的であった。
 - ・「お金を貯めたり使ったりすることについて長期の計画を立て、それを達成するよう努力している」とする回答比率や、「何かを買う前に、それを買う余裕があるかどうか注意深く考える」とする回答比率は、そうしないとの回答比率を大幅に上回った。また、金融商品選択の判断において、有利な条件のみを強調した預金広告に対しては慎重な態度が見受けられた。
 - ・他方、1か月の生活費相当以上の借入経験のある人の過半が借入先金融機関の比較を行っていなかったほか、1か月の生活費相当以上の資金を運用した人の相当数が金融商品・金融機関の比較を行っていなかった。
 - ・また、将来に対するお金の備えについては、医療・介護・教育を中心にその必要性を感じつつも、準備できていないとする回答が相当数みられた。この間、自分の受け取れる公的年金に関しては、加入年金種類を多くの人が知っている一方、満額支給のための必要加入年数、受け取れる金額等を知っている人は半数以下に止まった。
- ② 「金融経済に関する知識」については、設問によって正答率は区々となっている。基礎

的な金利計算などの理解の正答率が高い。他方、リスク商品に対する理解、複利計算、借入金利の法令上の上限などの分野では正答率は低い水準にある。

- ・ 1年間の金利の計算についての正答率は8割近い水準となっている。他方、複利計算の正答率は3割に止まった。
- ・ インフレに関する設問についての正答率は過半を超えているが、『わからない』との回答も相当数みられた。
- ・ リターンとリスクの関係についての設問については、正答率（「平均以上の高いリターンのある投資は、平均以上の高いリスクがあるものだ」について『正しい』と回答した人の割合）は過半を超えたが、『わからない』とした人も目立っている。
- ・ 借入にかかる金利の法令上の上限に関する正答率は半数を下回った。

③ 海外との比較（ドイツ・イギリス）については、次のような傾向がみられた。ただし、金融商品や金融サービス、税制等に関し各国の制度的枠組みに違いがあることを踏まえると、幅を持つてみる必要がある。

- ・ 1年間の金利の計算については、日本の正答率は、ドイツやイギリスより高かった。他方、複利計算の回答率では、日本の正答率は低かった。
- ・ リターンとリスクの関係についての設問に関しては、日本の正答率は、ドイツやイギリスより低かった。
- ・ 「お金を貯めたり使ったりすることについて長期の計画を立て、それを達成するよう努力している」については、日本の『あてはまる』は、ドイツより低く、イギリスより高かった。
- ・ 「先行きのためにお金を貯めるより今お金を使う方が満足感が高いと思う」については、日本の『あてはまる』はドイツよりやや高く、イギリスより低かった。
- ・ 「その日暮らして明日のことは明日また考えればよいと考えがちである」については、日本の『あてはまらない』はドイツ、イギリスより高かった。

④ 属性別でみると、高齢者は、他の年齢層に比べお金の備えはできていることを示す回答比率が高い。一方で、自らの知識や判断力への評価は高いが、金融商品のリスクに関連した設問等、知識面での正答率が低く、情報収集面でも情報入手不足・関心不足を示す回答比率が高い。また、若年者は、他の年齢層に比べ先行きへの備えが十分できてはいないことを示す回答比率が高いほか、お金の使い方に関して注意を払っている度合いを示す回答比率が低い。

- ・ 65歳以上は、医療・介護を意識したお金の備えができているとする回答が高く、他の年齢層に比べ準備が進んでいる。その一方、自らの知識や判断力に対する評価は高いが、

金融に関する知識を問う設問の正答率は概ね他の年齢層を下回ったほか、暮らしやお金の管理についての知識や情報の入手に関心がないとする回答比率が他の年齢層より高い。

- ・ 18～29歳の層では、医療・介護のためのお金の備えはできていないとする回答が過半を超え、他の年齢層に比べても準備が進んでいないほか、お金の使い方に関する設問（物を買う前に余裕があるか考えるか、自分のお金や金融について十分注意しているか等）に対し、注意を払っている旨の回答比率が他の年齢層に比べ概ね低い。

⑤ 男女対比では、(イ)「考え方と行動」の各項目では、男性より女性の方が長期志向を示す回答比率が高い、(ロ)投資については、男性では損をすることがあっても仕方ないと思う回答比率が高いのに対し、女性ではそう思わないとする回答比率が高い、(ハ)知識を問う設問では、男性の方が正答率が高い。

- ・ 将来のことを考えた行動や態度をとっているかについて問う設問では、男性よりも女性の方が長期志向の回答比率が高い。
- ・ 「投資するときには、お金を損することがあっても仕方ないと思う」については、男性では、『あてはまる』という回答が『あてはまらない』よりも多い一方、女性では、『あてはまらない』という回答の方が多い。
- ・ 金融に関する知識を問う設問の正答率は、男性が女性を上回っている。

⑥ 金融経済情報に接する頻度、正しい知識、行動の長期志向・合理性においては、以下の傾向がみられた。

- ・ 金融・経済の情報に接する頻度が高い人は、そうでない人に比べて知識を問う設問で正答率が高い。
- ・ 「金融に関する考え方と行動」において長期志向的な回答をした人は、知識面での正答率が高い。

<特徴点からみた金融広報・教育面の課題>

- ・ わが国における個人のお金や金融に関する行動、考え方は、基本的に長期志向で堅実かつ慎重な傾向にあると考えられるが、これを維持・向上させるためには、社会変化に対応した金融広報・教育が必要。
- ・ 個人・家計が、長期的な視点を持ち、合理的な行動をしていくためには、お金や金融に関する情報を適切に収集し、正しい知識を身に付けていく必要がある。
- ・ 金融経済に関する知識面では、リスク商品に対する理解、複利計算、借入金利の法令上の上限などの分野で見受けられた課題に対応していくことが必要となる。
- ・ 高齢層については、資金面の余裕はあり、自分の知識や判断力に対する評価が高い

が、金融商品のリスクに関連した設問等知識にかかる正答率や、新たな知識・情報収集に対する関心が、他の年齢層より低く、こうした点に特に留意した知識普及面での工夫が必要となる。

- ・ 若年層は、将来への備えはこれから、と考えているが、お金の使い方に関して注意を払っている度合いが他の年齢層より低い傾向がある。今後一層の知識普及面での働きかけ・金融教育活動の展開が必要となる。
- ・ 男女対比では各々の特性に応じて対応を考えるべき要素につき、働きかけを工夫していくことが必要となる。

以 上

1. 調査の目的

この調査は、金融広報中央委員会が、諸外国での取り組みも参考にしつつ、今後、より効果的かつ効率的な活動を実施していくために、基礎情報を収集することを目的としている。

2. 調査の内容

主な調査項目は次のとおりである。なお、今回調査の具体的な設問内容については、「調査結果＜調査票（単純集計データ）＞」を参照。

(1) 自分の将来に対するお金の備えはあるか

今後必要になると意識している費用、定期的な収入が途絶えた時の備え等

(2) 自身の金融に関する知識や判断能力について

自分の金融に関する知識や判断能力は十分高いか、請求書の期日に遅れずに支払いをするか等

(3) インフレや金利等に関する基礎的な理解度

金利の計算、年金定期便への対応等

(4) 金利や手数料を必要以上に払うなど、不利な経済行動を取っていないか

過去の生活費相当額を超える額の運用経験、悪質商法や振り込め詐欺などの被害経験等

(5) どのような機会・媒体で情報を得ているか

金融商品を選択する際の知識・情報、金融商品以外の暮らしやお金の管理に関する知識・情報等

3. 調査対象者の抽出方法

(1) **（コアサンプル）** 18 歳以上の日本国内居住者の中から、層化二段無作為抽出法により計 8,000 人を抽出した。具体的には、層化無作為抽出により全国から 500 の調査地点を選び、各調査地点から無作為に対象者 16 人（計 8,000 人）を選んだ。

（オーバーサンプル） ①コアサンプルとオーバーサンプルの両者を加えた想定回収分布が、母集団の年齢層分布を 5% の有意水準で再現できるように、年齢層別のオーバーサンプル数（計 2,000 人）を定め、②その年齢層別オーバーサンプル数を全国 500 地点に按分したサンプル数を定め、各調査地点から無作為に対象者を選んだ。

(2) 標本抽出は住民基本台帳に基づいて実施した。

4. 調査の方法（訪問と郵送・インターネットの複合式）

(1) 依頼方法

コアサンプルに対する訪問面接調査とオーバーサンプルに対する郵送・インターネット複合調査を実施した。訪問面接調査の対象に対しては、調査員が調査対象者の自宅を訪問し、調査目的等を説明のうえ調査への協力を依頼した。また、郵送調査の対象に対しては、郵送により調査票を送付し調査への協力を依頼した。

(2) 回収方法

調査票の回収方法は、訪問対象者については、調査員が対象者の回答を聴き取り調査票に記入した。郵送により依頼した対象者については、郵送で返送してもらうかインターネット上の調査画面に回答を入力してもらった。

(3) 実施及び結果の集計

コアサンプルとオーバーサンプルを合わせた実際の回答者の年齢層分布が、日本国民の年齢層分布と有意水準 1% の誤差で等しくなるように、オーバーサンプル回答票のうち集計対象とするものを選択し、集計を実施した（この結果、コアサンプルからの回答票 2,939 票に加え、オーバーサンプルからの回答票 684 票のうち 592 票を集計・分析に使用した）。

なお、調査の実施および結果の集計は、株式会社 日本リサーチセンターに委託した。

5. 調査の時期

①コアサンプル（訪問面接調査）

・2011 年 11 月 11 日＜金＞～24 日＜木＞

②オーバーサンプル（郵送・インターネット調査）

・2011 年 11 月 11 日＜金＞～12 月 8 日＜木＞

6. 回収状況

＜地域別＞

	標本数	回収数	回収率
全 国	10,000	3,531	35.3%
北海道	419	164	39.1%
東 北	761	311	40.9%
関 東	3,279	948	28.9%
北 陸	440	212	48.2%
中 部	1,399	524	37.5%
近 畿	1,641	530	32.3%
中 国	598	247	41.3%
四 国	321	114	35.5%
九 州	1,142	481	42.1%

＜コアサンプル・オーバーサンプル別＞

	回収数
合計	3,531
① コアサンプル	2,939
② オーバーサンプル	592

7. 利用上の注意

この調査は標本調査であるため、調査結果には統計的誤差（サンプル誤差）が含まれる。

本調査についての照会先
金融広報中央委員会
（事務局 日本銀行情報サービス局内）
電話 03（3279）1111（代）

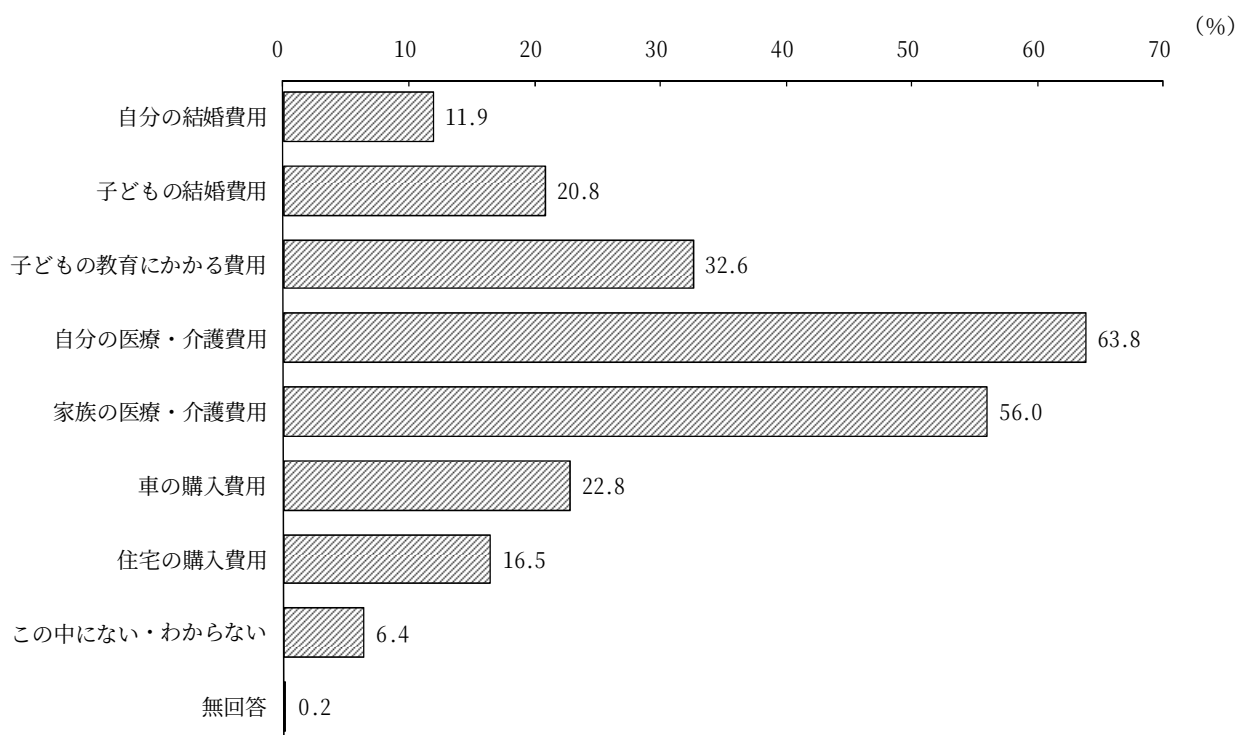
【調査結果の概要】

I. 将来に対するお金の備え全般について

1. 今後お金が必要になると意識している費用と準備状況

- ・ 今後お金が必要になると意識している費用については、「自分の医療・介護費用」との回答が 63.8%、「家族の医療・介護費用」との回答が 56.0%、「子どもの教育にかかる費用」との回答が 32.6%となった（複数回答）。

（図表 1－1）今後お金が必要になると意識している費用＜問 1－1＞



- ・ 今後お金が必要になると意識している費用のうち、「自分の結婚費用」「子どもの結婚費用」「住宅の購入費用」については、「準備できていない」との回答が 4 割を上回った。この間、いずれの費用についても「準備できている」と回答した場合は、「預・貯金」で準備しているとの回答がもっとも多かった。このうち、「自分の医療・介護費用」、「家族の医療・介護費用」、「子どもの教育にかかる費用」では、「預・貯金で準備している」（各々 52.4%、49.4%、49.5%）に次いで、「保険」で準備しているとの回答が多かった（各々 50.6%、49.1%、29.3%）（複数回答）。

(図表1－2) 今後お金が必要になると意識している費用について、どのように準備しているか＜問1－2＞

		準備できている							準備できていない
		預・貯金	保険	債券・投資信託等	株式	不動産	銀行等からの借入れ(予定を含む)	その他	
自分の結婚費用	→	41.9	39.8	1.9	0.7	0.5	0.2	2.1	57.6
子どもの結婚費用	→	52.7	46.7	8.3	1.8	1.0	1.9	2.6	46.9
子どもの教育にかかる費用	→	67.3	49.5	29.3	1.9	0.1	3.5	1.7	31.7
自分の医療・介護費用	→	77.2	52.4	50.6	3.8	2.7	0.4	1.6	22.1
家族の医療・介護費用	→	74.0	49.4	49.1	3.4	2.0	0.9	1.6	25.1
車の購入費用	→	59.7	50.9	2.5	2.1	0.5	7.8	2.4	39.3
住宅の購入費用	→	48.2	31.6	2.1	1.9	2.1	21.0	1.7	48.5

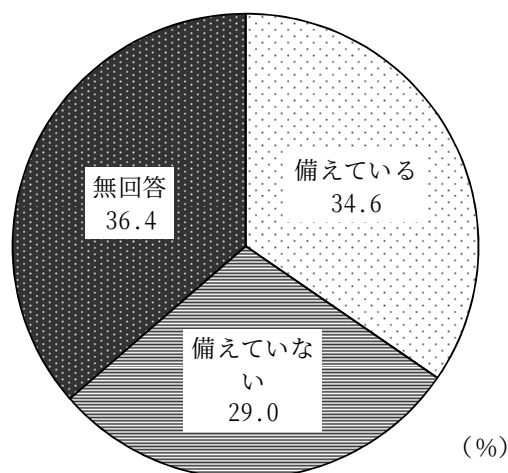
(注)「預・貯金」、「保険」等は、「準備できている」の内訳項目ではあるが、複数回答による回答比率を示しているため、足し上げても「準備できている」には一致しない。

2. 定期的な収入が途絶えた場合への備え

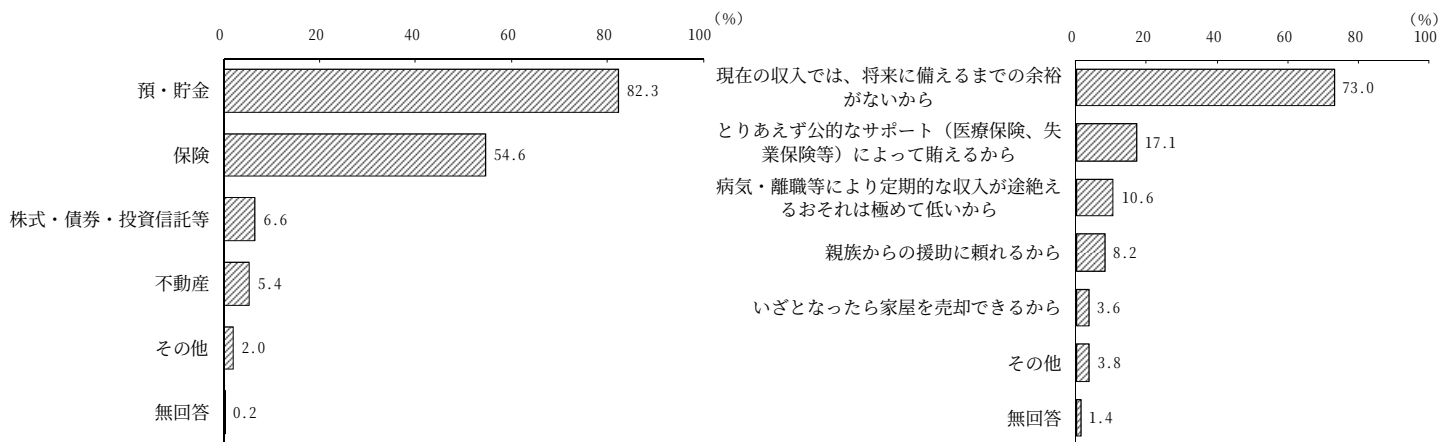
- ・病気・離職等により定期的な収入が途絶えた場合に対して、「備えている」との回答は 34.6%、「備えていない」との回答は 29.0%となった。
- ・「備えている」との回答では、「預・貯金」が 82.3%、「保険」が 54.6%となった(複数回答)。
- ・「備えていない」理由では、「現在の収入では、将来に備えるまでの余裕がないから」が 73.0%となった(複数回答)。

(図表1－3) 定期的な収入が途絶えた場合への備え＜問1－3＞

※年金生活や無職の方は「無回答」に含まれる。



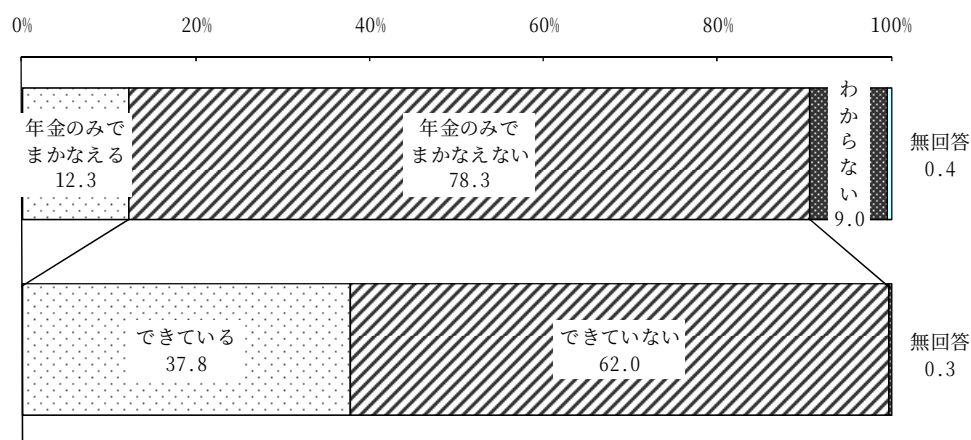
(図表1－4) どのように備えているか＜問1－4＞、備えていない理由＜問1－5＞



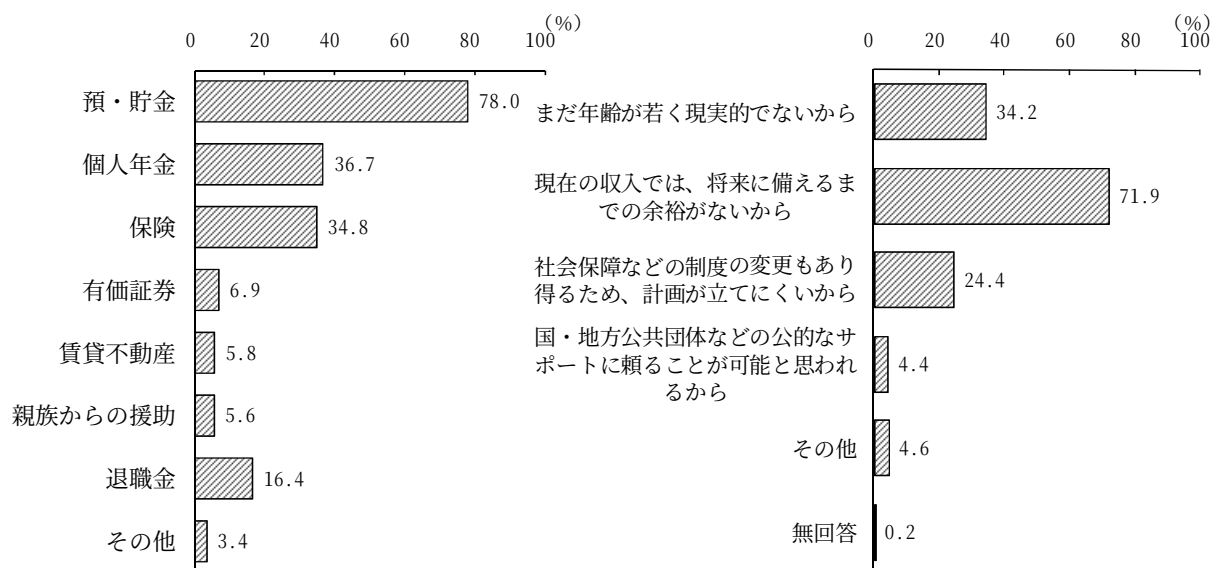
3. 老後の費用

- ・老後の費用について、「年金のみでまかなえない」とした人は78.3%となった。
- ・「年金のみでまかなえない」とした人のうち、他の資金で準備が「できている」とした人は37.8%、「できていない」とした人は62.0%となった。
- ・「準備ができている」とした人がどのような資金で準備をしたかをみると、「預・貯金」が78.0%、「個人年金」が36.7%、「保険」が34.8%、「退職金」が16.4%となった（3つまでの複数回答）。
- ・「準備ができていない」とした人の理由をきくと、「現在の収入では、将来に備えるまでの余裕がないから」が71.9%、「まだ年齢が若く現実的でないから」が34.2%、「社会保障などの制度の変更もあり得るため、計画が立てにくいから」が24.4%となった（3つまでの複数回答）。

(図表1－5) 老後の費用を年金のみでまかなえるか＜問1－8、問1－9＞

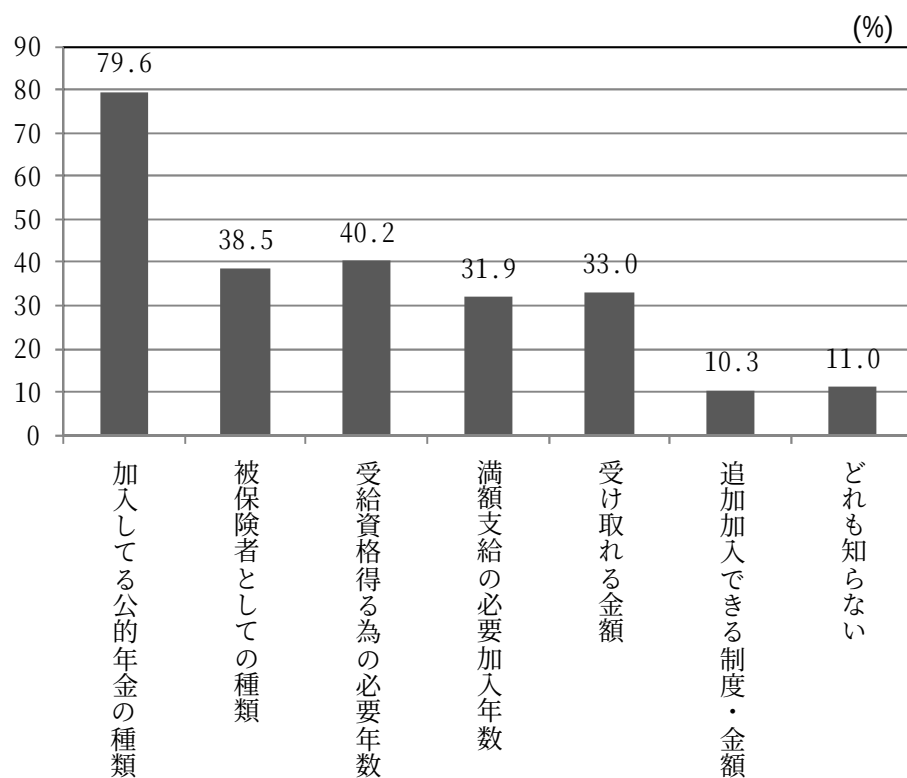


(図表 1 - 6) 年金以外の資金でどのように備えているか<問 1 - 1 0>、年金以外の備えができていない理由<問 1 - 1 1>



- ・自分が受け取れる公的年金については、「自分が加入している公的年金の種類」を知っていると答えた人は 79.6%となった（複数回答）。
- ・他方、「受け取れる金額を知っている」と答えた人は 33.0%、「満額支給のための必要加入年数を知っている」と答えた人は 31.9%となった（複数回答）。

(図表 1 - 7) 自分が受け取れる公的年金について知っていること<問 1 - 7>



Ⅱ. 金融に関する考え方と行動全般について

1. お金を貯めたり使ったりすること等についての考え方

- ・お金を貯めたり使ったりすることについて長期の計画を立て、それを達成するよう努力していることについて、『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計、以下同じ）とした人が 46.3%、『あてはまらない』（「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」の合計、以下同じ）とした人が 28.9%となった。
- ・先行きのためにお金を貯めるより今お金を使う方が満足感が高いと思うかどうかについて、『あてはまる』とした人が 21.5%、『あてはまらない』とした人が 49.1%となった。
- ・その日暮らしで明日のことは明日また考えればよいと考えがちかどうかについて、『あてはまる』とした人が 15.3%、『あてはまらない』とした人が 71.3%となった。
- ・お金は使うためにあるかについては、『そう感じている』とした人が 50.6%、『そう感じていない』とした人が 17.1%となった。

（図表 2－1）次の点について、自身にどの程度あてはまるか＜問 1－6 a、b、c、問 2－4 b＞

(%)

	あてはまらない (合計)	あてはまらない あてはまらない	どちらかといえ あてはまらない	どちらとも いえない	あてはまる (合計)	あてはまる あてはまる	あてはまる
1-6 a. お金を貯めたり使ったりすることについて長期の計画を立て、それを達成するよう努力している	28.9	15.4	13.5	24.1	46.3	26.9	19.4
1-6 b. 先行きのためにお金を貯めるより今お金を使う方が満足感が高いと思う	49.1	28.5	20.6	28.1	21.5	12.7	8.8
1-6 c. その日暮らしで明日のことは明日また考えればよいと考えがちである	71.3	50.0	21.3	12.1	15.3	9.0	6.3
	そう感じていない (合計)	全くそう 感じていない	どちらかといえ そう感じていない	どちらとも いえない	そう感じている (合計)	そう感じている そう感じている	そう感じている
2-4 b. お金は使うためにある	17.1	4.6	12.5	31.6	50.6	28.7	21.9

2. お金を使うことについての行動

- ・何かを買う前に、それを買う余裕があるかどうか注意深く考えるかについては、『そうする』（「いつもそうする」と「そうすることが多い」の合計、以下同じ）とした人が77.0%、『そうしない』（「いつもそうしない」と「そうすることはあまりない」の合計、以下同じ）とした人が10.5%となった。
- ・請求書の期日に遅れずに支払いをするかについては、『そうする』とした人が88.1%、『そうしない』とした人が3.9%となった。
- ・お金が貯まるまで待つより、クレジットカードで買い物をするかについては、『そうする』とした人が10.1%、『そうしない』とした人が74.6%となった。
- ・クレジットカードで分割払いやリボルビング払いを利用するより、支出を切り詰めるかについては、『そうする』とした人が57.1%、『そうしない』とした人が24.9%となった。
- ・自分のお金や金融に関することについては、十分注意しているかについては、『そうする』とした人が76.6%、『そうしない』とした人が6.8%となった。

（図表2－2） お金を使うことについての行動＜問2－4c、d、e、f、g＞

(%)

	そうしない (合計)	いつも そうしない	あまりない	どちらとも いえない	そうする (合計)	多い そうすることが	いつもそうする
c. 何かを買う前に、それを買う余裕があるかどうか注意深く考える	10.5	2.6	7.9	12.1	77.0	38.9	38.1
d. 請求書の期日に遅れずに支払いをする	3.9	1.6	2.3	7.3	88.1	19.9	68.2
e. お金が貯まるまで待つより、クレジットカードで買い物をする	74.6	58.1	16.5	14.3	10.1	7.4	2.7
f. クレジットカードで分割払いやリボルビング払いを利用するより、支出を切り詰める	24.9	18.5	6.4	16.9	57.1	21.0	36.1
g. 自分のお金や金融に関することについては、十分注意している	6.8	2.5	4.3	16.2	76.6	32.1	44.5

Ⅲ. 金利やインフレなど金融についての知識等について

1. 金利の計算

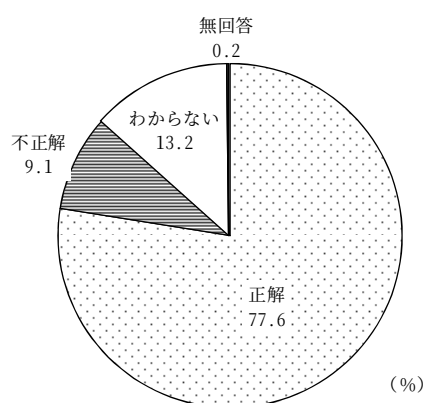
- ・1年間の金利の計算についての正答率（注1）は77.6%、複利についての正答率（注2）は30.5%となった。

（注1）1年間の金利の計算についての正答率は、「100万円を預貯金口座に預け入れました。金利は年率2%だとします。また、この口座には誰もこれ以上お金を預け入れないとして、1年後、口座の残高はいくらになっているでしょうか。」という問いに対して「102万円」と回答した割合。

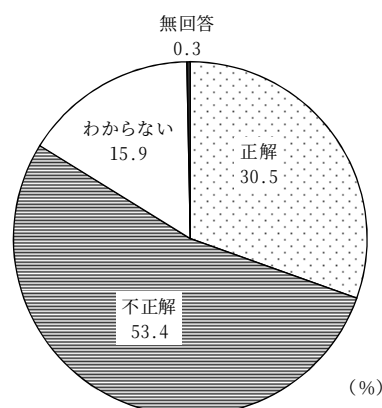
（注2）複利についての正答率としては、「では、5年後には口座の残高はいくらになっているでしょうか。」という問いに対して「110万円より多い」と回答した割合を挙げている。但し、対象預貯金の商品性が明示されていないため、正解以外の回答者の中には、預貯金の商品性や税務等を考えて回答した者がいる可能性がある。

（図表3－1）金利の計算＜問3－1－1、問3－1－2＞

1年間の金利の計算



複利の計算



2. インフレについて

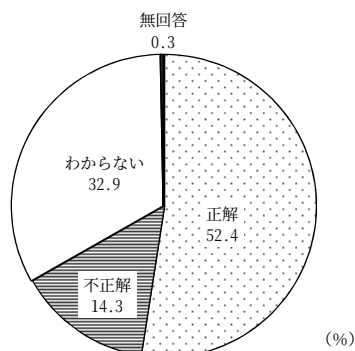
- ・「仮に、インフレ率が3%で、普通預金口座であなたが受け取る利息が1%なら、1年後にこの口座のお金を使ってどれくらいの物を購入することができると思いますか」という設問（インフレについて①）に正答した人（注1）は52.4%、「わからない」とした人が32.9%となった。
- ・「高インフレの時には、生活に使われるものやサービスの値段全般が急速に上昇する」とことについての設問（インフレについて②）に正答した人は54.0%、「わからない」とした人が36.3%（注2）となった。

（注1）「今日以下しか物が買えない」と回答。

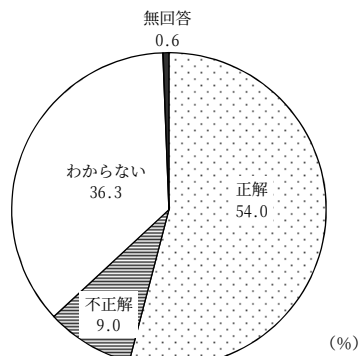
(注2) 正答率は問いに対して肯定回答をした割合。ただし、「わからない」と回答した者が全体の3分の1以上いるが、この中には、バブル等の経験を経て、「インフレ」といった場合、土地等資産価格の動向を勘案する必要があると考え、正否の判断を留保した者が含まれている可能性がある。

(図表3-2) インフレについて<問3-2、問3-3b>

インフレについて①



インフレについて②

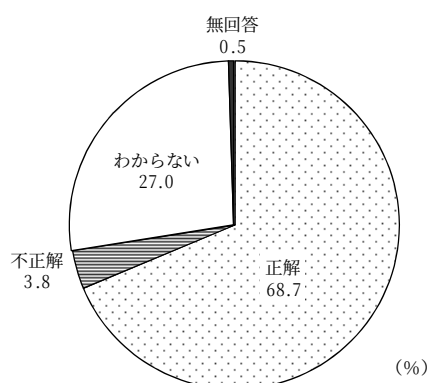


3. リターンとリスクの関係、リスクの分散の効用

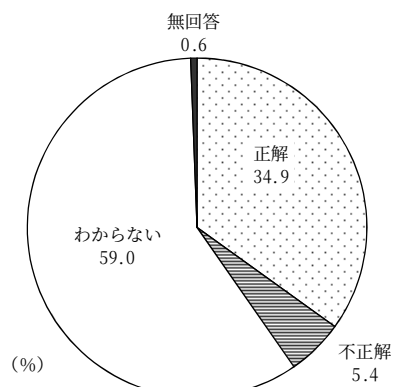
- ・リターンとリスクについての正答率（「平均以上の高いリターンのある投資は、平均以上の高いリスクがあるものだ」について「正しい」と回答した人の割合）は68.7%、「わからない」とした人が27.0%となった。
- ・リスクの分散についての正答率（「一社の株を買うことは、通常、株式投資信託を買うよりも安全な投資である」について「間違っている」と回答した人の割合）は34.9%、「わからない」とした人が59.0%（注）となった。

(図表3-3) リターンとリスクの関係、リスクの分散の効用<問3-3a、c>

リターンとリスクの関係



リスクの分散の効用

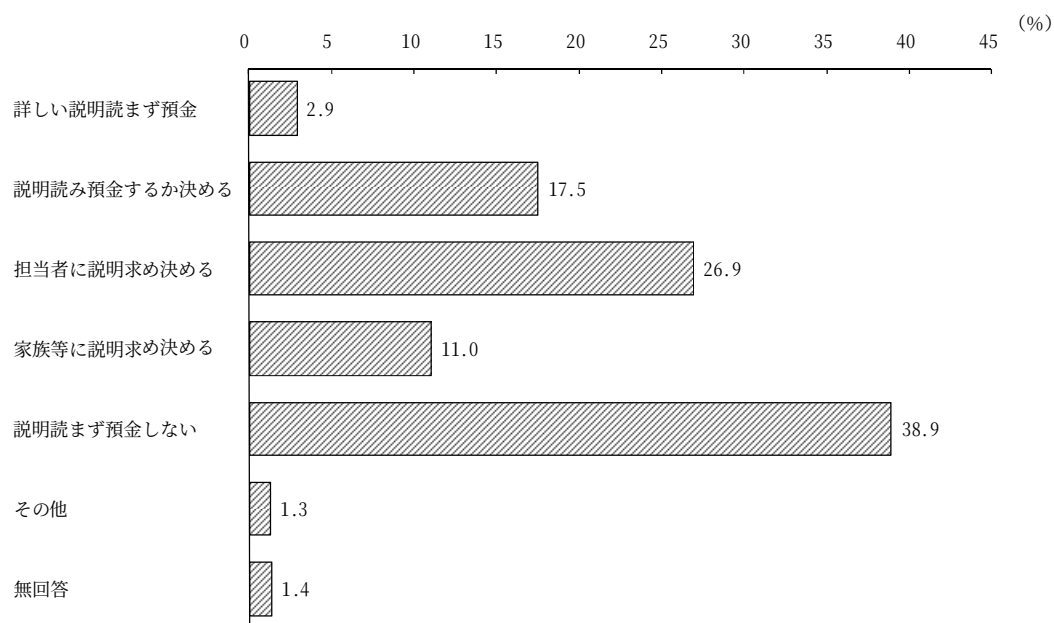


(注) 回答者の約6割が「わからない」としているが、この中には、設問中の「株式投資信託」の商品内容が明示されていない点を踏まえて回答した者がいる可能性があり、リスク分散に関する設問（1社投資と複数社投資の比較）と理解されなかった可能性がある。

4. 有利な条件のみを強調した預金広告に対する行動

- ・有利な条件のみを強調した預金広告に対する行動としては、「詳しい説明は読まずに預金しない」が 38.9%、次いで「詳しい説明について担当者に説明を求めてから預金するかどうかを決める」が 26.9%となった。

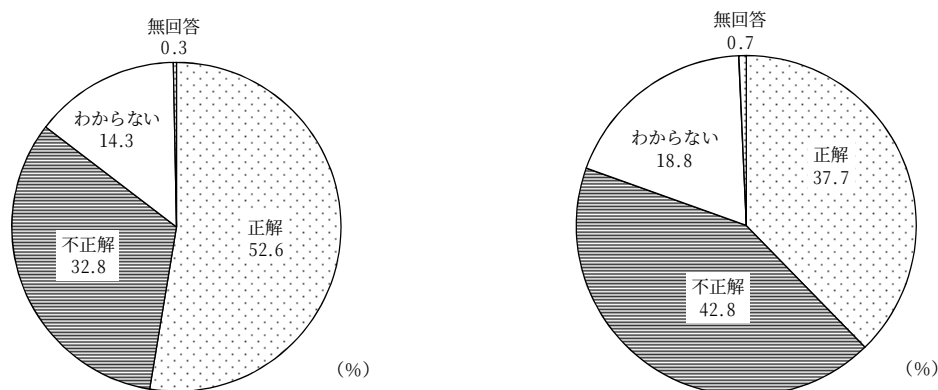
(図表 3 - 4) 有利な条件のみを強調した預金広告に対する行動<問 3 - 6>



5. クーリング・オフ、金利の上限

- ・クーリング・オフが可能な期間についての正答率（「路上で勧められて購入後 1 週間が経過しているが、クーリング・オフできるか」に対して「できる」と回答した人の割合）は 52.6%となった。
- ・金利の上限についての正答率（「年利 23%でお金を借りました。この利息は後で当然支払わなければならないか」に対して「いいえ」と答えた人の割合）は 37.7%となった。

(図表 3－5) クーリング・オフ、金利の上限＜問 3－8、3－9＞
 クーリング・オフが可能な期間 金利の上限



6. 自分の金融に関する知識や判断力についての自己評価

・自分の金融に関する知識や判断力が十分高いかについては、『そう感じている』（「そう感じている」と「どちらかといえばそう感じている」の合計、以下同じ）とした人が 17.7%、『そう感じていない』（「全くそう感じていない」と「どちらかといえばそう感じていない」の合計）とした人が 47.9%（差引△30.2%）となった。

(図表 3－6) 自分の金融に関する知識や判断力についての自己評価＜問 2－4 a＞

(%)

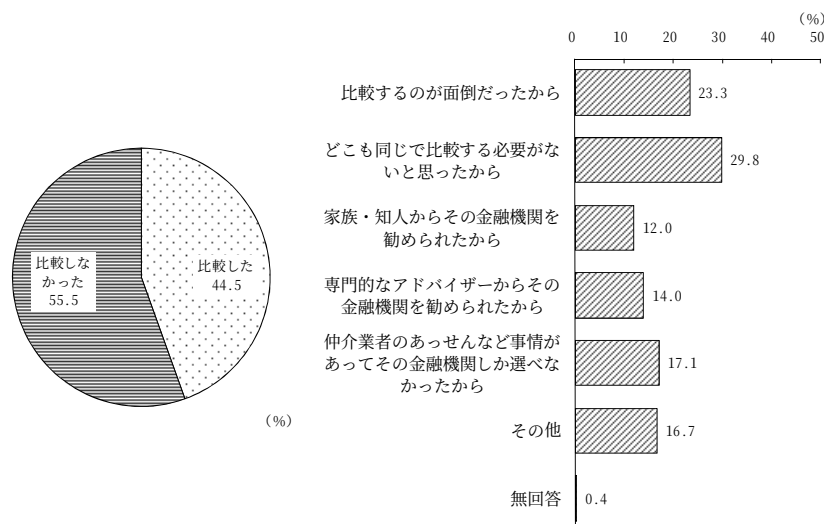
	そう感じていない (合計)	全くそう 感じていない	どちらかとい えばそう感 じていない	どちらとも いえない	そう感じて いる (合計)	どちらかとい えばそう感 じている	そう感じて いる
a. 自分の金融に関する知識や判断能力は十分高い	47.9	21.8	26.1	33.9	17.7	11.6	6.1

IV. 金利や手数料支払いなどにおいて、不利な経済行動を取っていないか

1. 複数の金融商品等を比較しない理由

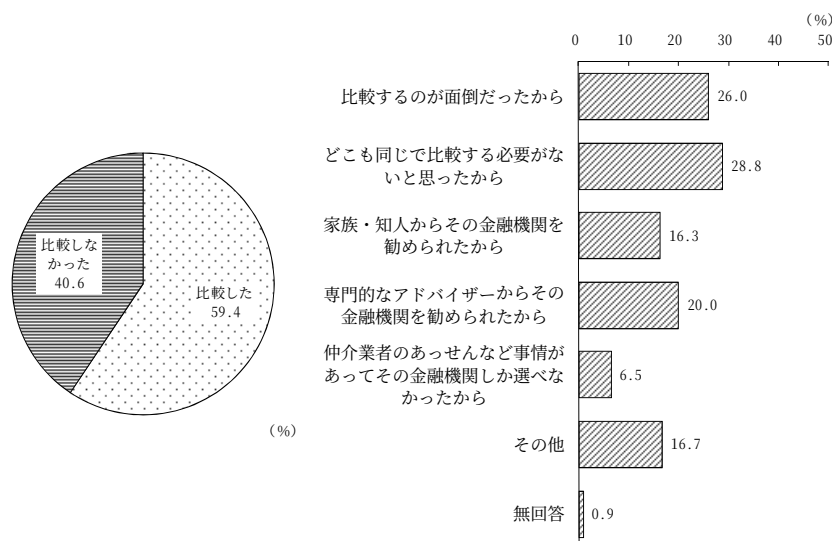
・過去に 1 か月の生活費相当以上のお金を借りたことがある人のうち、複数の金融機関（ローン）を比較しなかった人は 55.5% となった。その理由は、「どこも同じで比較する必要があると思ったから」が 29.8%、「比較するのが面倒だったから」23.3% となった（複数回答）。

(図表 4－1) 複数比較しなかった割合、理由＜問 4－1－1、4－1－3＞



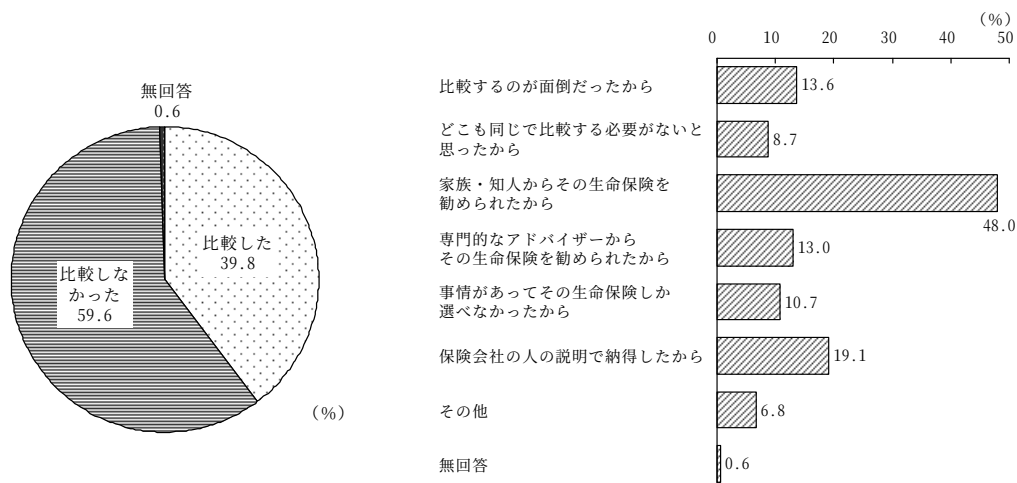
- ・過去に1か月の生活費相当以上のお金を運用したことがある人のうち、複数の金融機関（金融商品）を比較しなかった人は40.6%となった。その理由では、「どこも同じで比較する必要がないと思ったから」が28.8%、「比較するのが面倒だったから」26.0%、「専門的なアドバイザーからその金融機関（金融商品）を勧められたから」が20.0%となった（複数回答）。

(図表 4－2) 複数比較しなかった割合、理由＜問 4－2－1、4－2－3＞



- ・現在、生命保険に加入している人のうち、複数の生命保険を比較しなかった人は59.6%となった。その理由は、「家族・知人からその生命保険を勧められたから」が48.0%、「保険会社の人の説明で納得したから」が19.1%、「比較するのが面倒だったから」が13.6%となった（複数回答）。

(図表 4－3) 複数比較しなかった割合、理由<問 4－4－2、4－4－4>

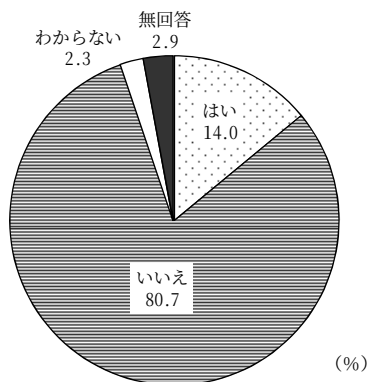


2. クレジットカードの利用 (リボルビング払い、キャッシング)

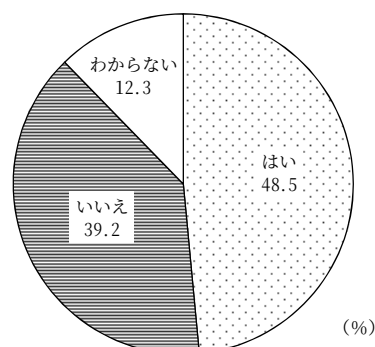
- ・クレジットカードを使う時、一括払いが可能な状況であっても、リボルビング払いを選んだことがあるとした人は、14.0%となった。
- ・クレジットカードを使ってキャッシングをしたことがある人のうち、普通預金からも同額のお金を引き出すことができた人は、48.5%となった。

(図表 4－4) クレジットカードの利用 (リボルビング払い、キャッシング)
<問 4－3－4、4－3－6>

一括払いが可能な状況で
リボルビング払いを選んだ割合



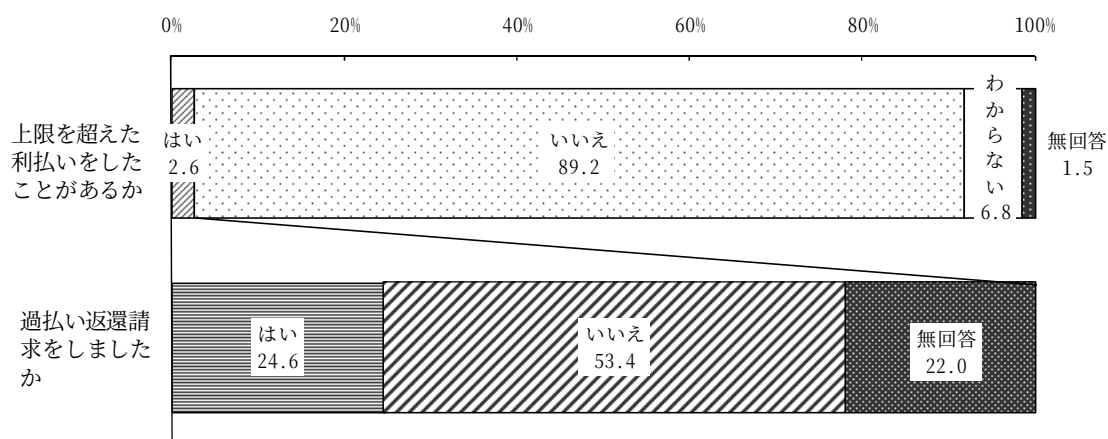
普通預金から引き出せる金額を
キャッシングした経験のある割合



3. 上限を超えた利払いをした時、および悪質商法等の被害に遭った時の行動

- ・上限金利を超えた水準の金利を払ったことがある人は、2.6%だった。このうち、過払い返還請求をしなかった人は 53.4%となった。

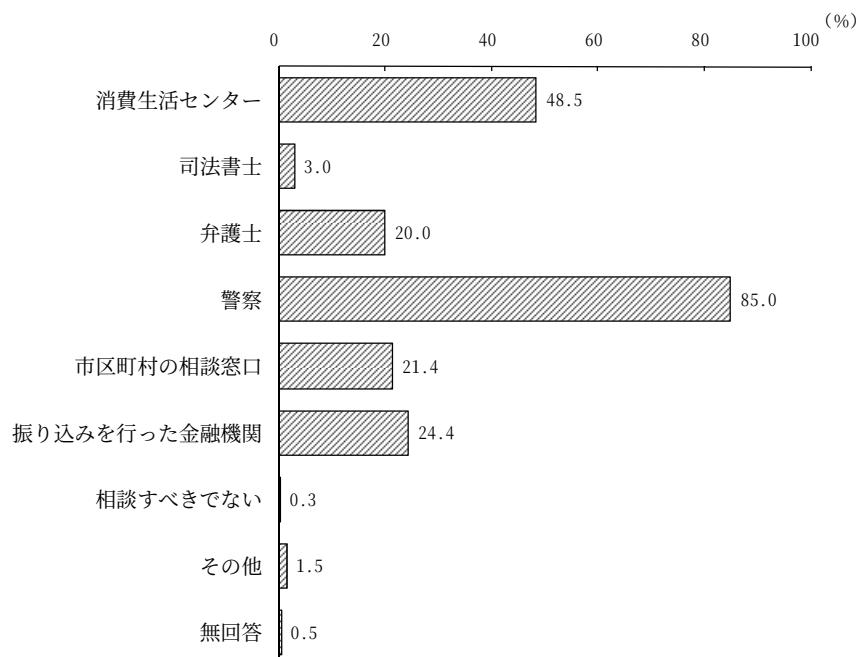
(図表 4－5) 上限を超えた利払いをした時の行動<問 4－5－2、4－5－3>



(注) 上限金利とは、借入金額の元本が 10 万円未満の場合は年利 20%、10 万円以上 100 万円未満の場合は年利 18%、100 万円以上の場合は年利 15%を超える金利のこと。

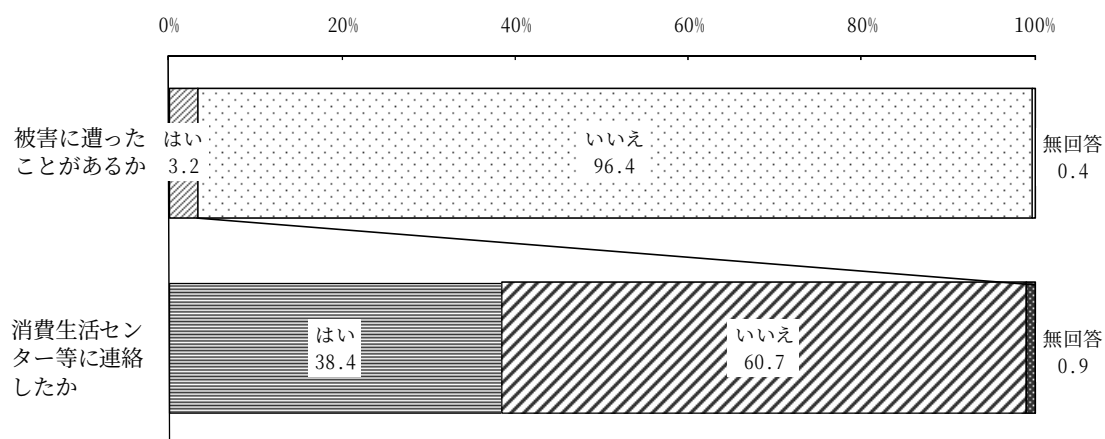
・「仮に、家族が振り込め詐欺にあい、30 万円を見知らぬ人に送金してしまった場合の相談先」としては、「警察」が 85.0%、次いで「消費生活センター」が 48.5%となった（複数回答）。

(図表 4－6) 家族が振り込め詐欺にあった場合の相談先<問 3－10>



・実際に悪質商法や振り込め詐欺などの被害に遭ったことのある人は 3.2%だった。このうち、消費生活センターや警察に連絡した人は、38.4%であった。

(図表４－７) 悪質商法等の被害に遭った時の行動<問４－９、４－９－１>

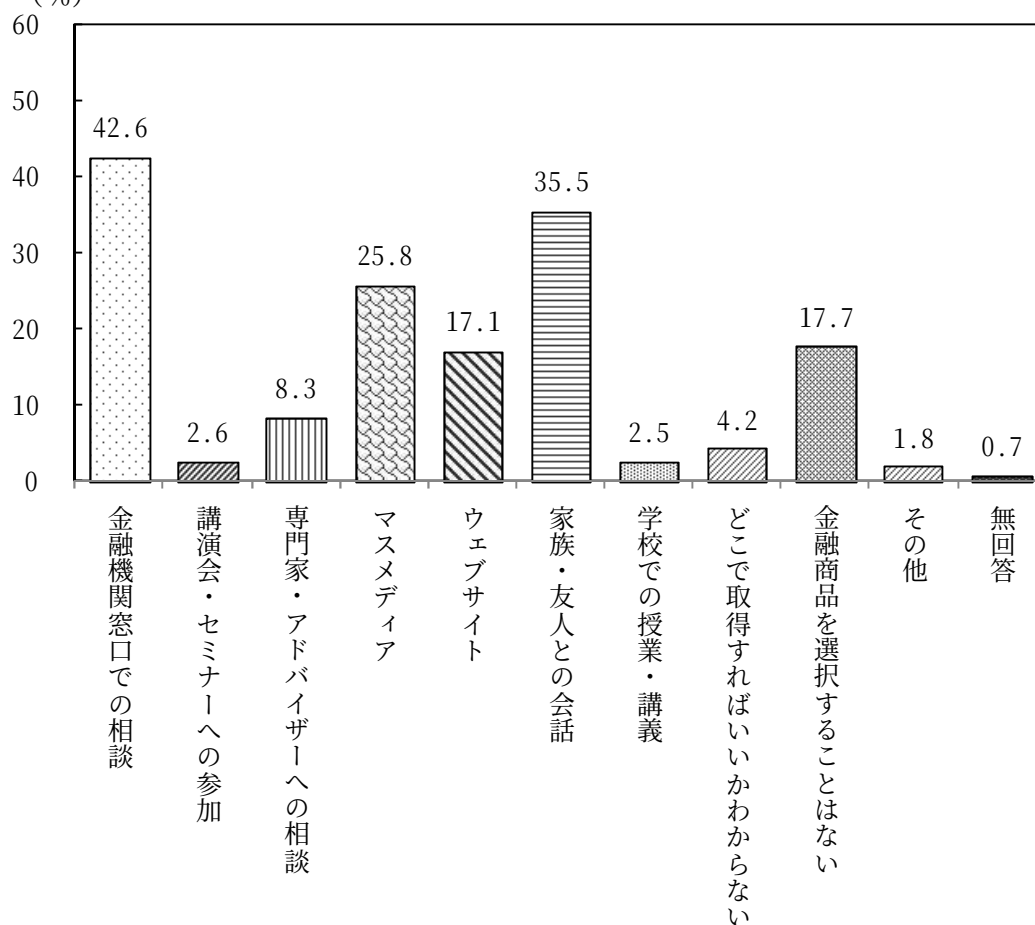


V. どのように情報を得ているか

1. 金融商品の選択

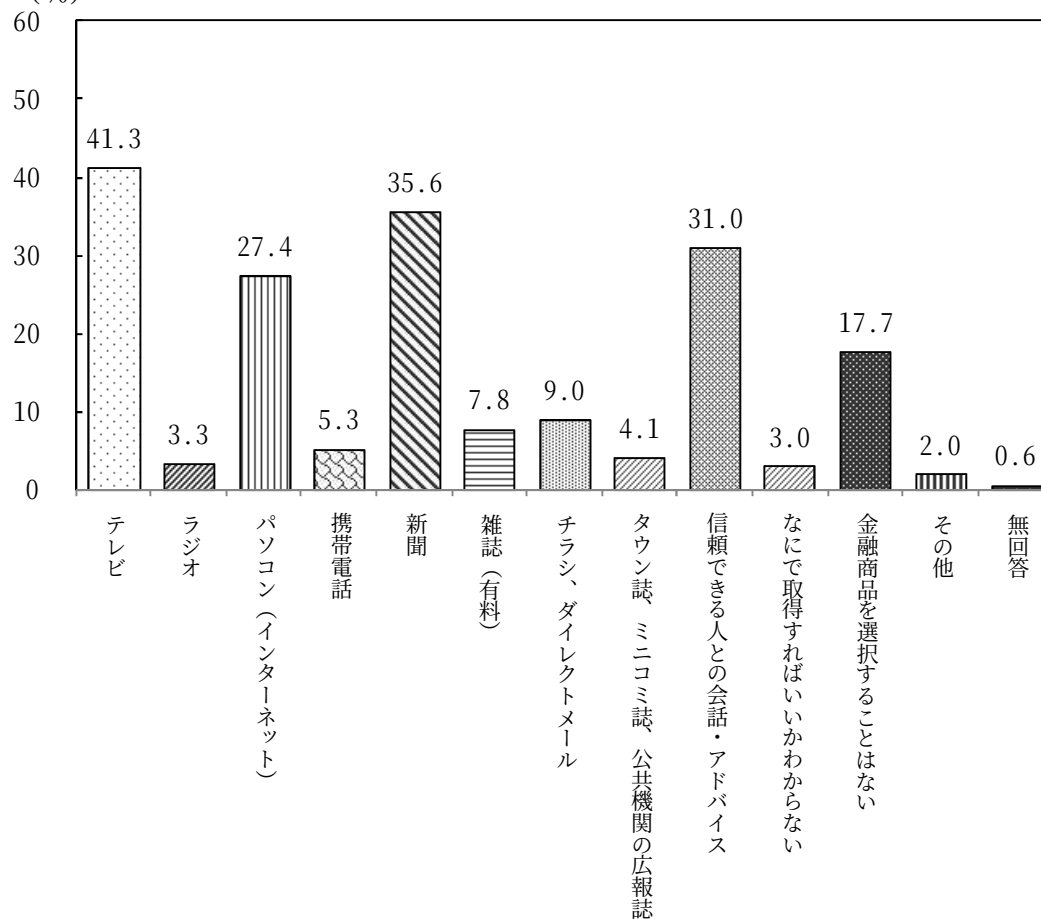
- 金融商品を選択する際の知識・情報をどのような機会に得ているかでは、「金融機関窓口での相談」との回答が 42.6%と最も多く、ついで「家族・友人との会話」との回答が 35.5%となった（3つまでの複数回答）。

(図表５－１) 金融商品を選択する際の知識・情報を得る機会<問５－１－１>
(%)



・金融商品を選択する際の知識・情報をどのような媒体で得ているかについては、「テレビ」が 41.3%、「新聞」が 35.6%、「信頼できる人との会話・アドバイス」が 31.0%、「パソコン」（インターネット）が 27.4%となった（3つまでの複数回答）。

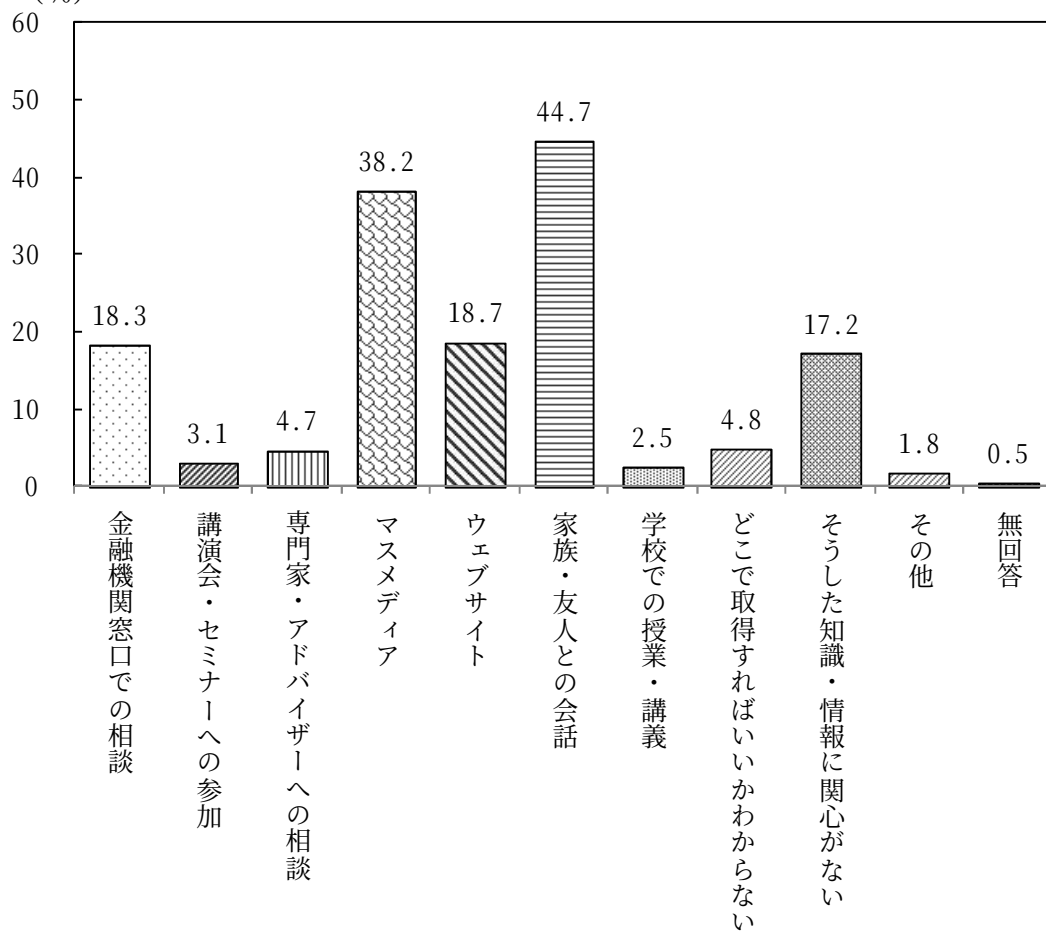
（図表 5－2）金融商品を選択する際の知識・情報を得る媒体＜問 5－2－1＞
（％）



2. 暮らしやお金の管理

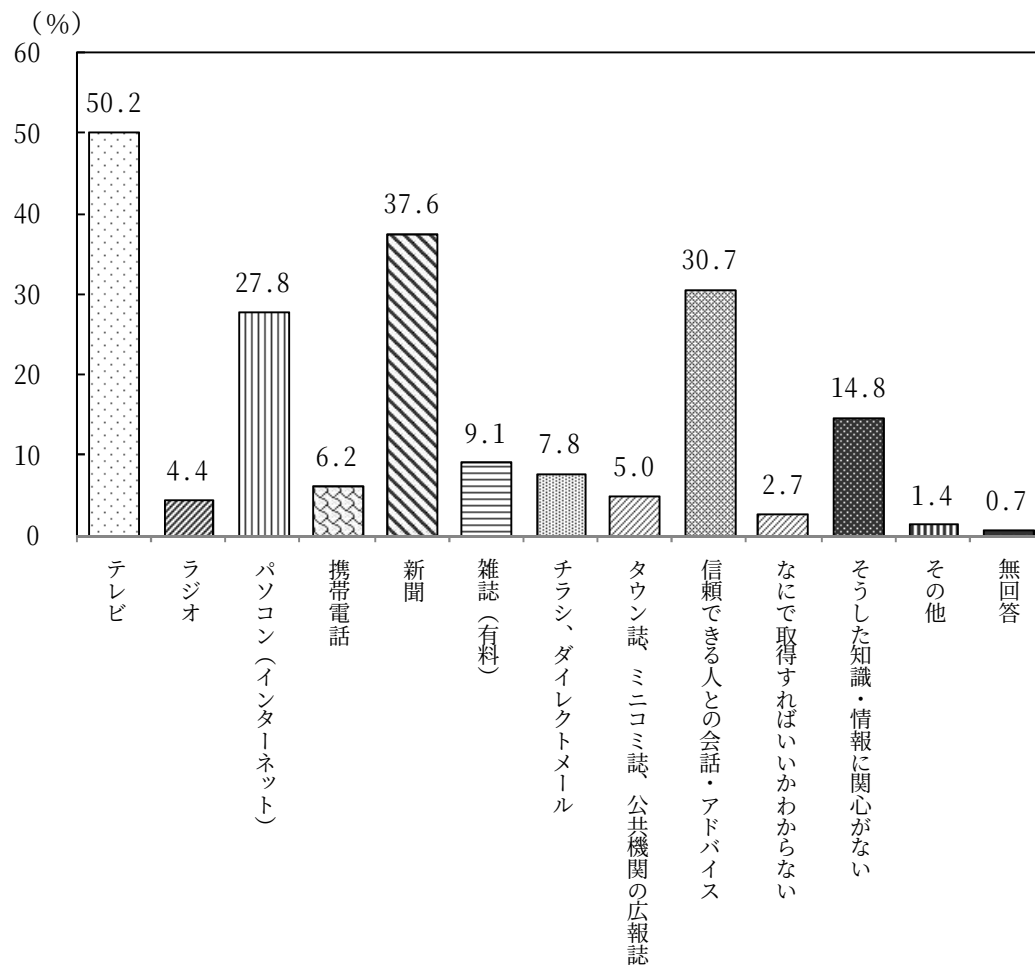
・暮らしやお金の管理に関する知識・情報をどのような機会に得ているかでは、「家族・友人との会話」が 44.7%、「マスメディア」が 38.2%、「ウェブサイト」が 18.7%となった（3つまでの複数回答）。

（図表 5－3）暮らしやお金の管理に関する知識・情報を得る機会＜問 5－1－2＞
（%）



・暮らしやお金の管理に関する知識・情報をどのような媒体から得ているかでは、「テレビ」が 50.2%、「新聞」が 37.6%、「信頼できる人との会話・アドバイス」が 30.7%、「パソコン」(インターネット)が 27.8%となった(3つまでの複数回答)。

(図表 5－4) 暮らしやお金の管理に関する知識・情報を得る媒体<問 5－2－2>



【参考1】今回調査の標本属性

今回調査における、調査対象者の状況は、以下のとおりとなった。

- ①回答者の 45.5%が男性、54.5%が女性となった。年齢層で見ると、70 歳以上が 20.9%、60 歳代が 17.9%、30 歳代が 16.5%となった。
- ②同居人のいる回答者の 42.3%が「家計を取り仕切る立場」と回答した。
- ③自分自身の年収については 250 万円未満との回答が最も多く 45.8%、ついで 250～500 万円未満が 23.6%。なお、収入はないと回答した人は 12.9%となった。世帯年収では、250～500 万円未満との回答が最も多く 28.8%、ついで 500～750 万円未満が 17.1%となった。自分自身の金融資産額は 250 万円未満との回答が最も多く 27.8%となった。
- ④最終学歴については、高等学校との回答が最も多く 40.5%、ついで大学が 21.1%となった。
- ⑤金融・経済情報をほぼ毎日みているとの回答は、全体の 36.9%となった一方、まったくみないとの回答が 22.1%、月に1回程度より少ない頻度でしかみないとの回答が 15.8%となった。
- ⑥インターネットを毎日使うとの回答は 37.6%となった一方、接続できる環境にないとの回答が 21.9%、（接続できる環境ではあるが）まったく使わないとの回答が 17.2%となった。

今回調査の標本属性

(1)	性別	男性	女性						
		45.5	54.5						
(2)	年齢	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳以上
		2.5	14.0	16.5	14.2	14.0	10.3	7.6	20.9
(3)	家計の立場	取り仕切る	取り仕切らない						
		42.3	51.6						
(4)	年収	収入はない	250万円未満	500万円未満	750万円未満	1,000万円未満	1,500万円未満	1,500万円以上	
		12.9	45.8	23.6	7.5	3.0	1.2	0.2	
(5)	世帯年収	収入はない	250万円未満	500万円未満	750万円未満	1,000万円未満	1,500万円未満	1,500万円以上	
		0.7	13.8	28.8	17.1	10.4	4.9	1.7	
(6)	金融資産	資産はない	250万円未満	500万円未満	750万円未満	1,000万円未満	1,500万円未満	2,000万円未満	2,000万円以上
		18.0	27.8	12.3	5.6	4.0	4.5	2.3	4.6
(7)	最終学歴	義務教育のみ	高等学校	専門学校	短大・高専	大学	大学院	予備校	その他
		14.6	40.5	11.0	10.4	21.1	1.6	0.1	0.4
(8)	金融経済情報の確認頻度	ほぼ毎日	週に1回程度	月に1回程度	左記より少ない頻度	まったくみない	その他		
		36.9	17.0	7.5	15.8	22.1	0.5		
(9)	インターネットの使用頻度	毎日	週に1回	月に1回	左記より少ない頻度	まったく使わない	接続できる環境にない	その他	
		37.6	14.7	3.4	2.6	17.2	21.9	1.3	

【参考2】海外との比較

金融力調査では、金融に関する知識、お金に関わる事柄についての考え方や行動について、近年海外で行われた調査を念頭に置きつつ調査を行った。比較可能と思われる設問について、主として、ドイツ、イギリス（一部、米国）との比較を紹介すると以下のとおり。ただし、金融商品や金融サービス・税制に関する各国の制度的枠組みに違いがあることを踏まえると、幅を持ってみる必要がある。

- 欧州では、経済協力開発機構（OECD）の金融教育に関する国際ネットワーク（International Network on Financial Education, INFE）会議参加国のうち、英国、ドイツを含む14か国が、2010年から2011年にかけて調査（Measuring Financial Literacy）を実施した。この結果から、一部の設問について、ドイツ・イギリスと日本を比較することができる。
- 米国では、証券業界の自主規制機関（Financial Industry Regulatory Authority, FINRA）が2009年に調査（“Financial Capability in the United States”）を実施した。この結果から、一部の設問について、米国と日本を比較することができる。

<金融に関する知識の比較>

- ①1年間の金利の計算（問3-1-1）については、日本の正答率（77.6%）は、ドイツ（64.0%）やイギリス（61.0%）より高かった。

問3-1-1. 100万円を預貯金口座に預け入れました。金利は年率2%だとします。また、この口座にはだれもこれ以上お金を預け入れないとします。1年後、口座の残高はいくらになっているでしょうか。

	102万円（正解）	100万円、110万円、その他	わからない
日本	77.6	9.1	13.2
ドイツ	64.0	18.0	17.0
イギリス	61.0	19.0	19.0

- ②一方、複利の計算（問3-1-2）については、日本の正答率（28.7%）は、ドイツ、イギリスのいずれよりも低かった。

問3-1-2. では、5年後には口座の残高はいくらになっているでしょうか。

	110万円より多い (正解)	ちょうど110万円、110万円より少ない、その他 (不正解)	わからない
日本	28.7	68.2	3.0
ドイツ	47.0	53.0	—
イギリス	37.0	63.0	—

*正解は、問3-1-1と問3-1-2両方で正解した人の正答率。

- ③インフレに関する設問（問 3-2）については、日本の正答率（52.4%）は、米国（64.0%）より低かった。

問3-2 仮に、インフレ率が3%で、普通預金口座であなたが受け取る利息が1%なら、1年後にこの口座のお金を使ってどれくらいの物を購入することができると思いますか。

	今日以下しか物が買えない (正解)	今日以上に物が買える、今日と全く同じだけ物が買える (不正解)	わからない
日本	52.4	14.3	32.9
米国	64.0	20.0	14.0

- ④リターンとリスクの関係についての設問（問 3-3a）については、日本の正答率（68.7%）は、ドイツ（79.0%）やイギリス（77.0%）より低かった。

問3-3a. 平均以上の高いリターンのある投資は、平均以上の高いリスクがあるものだ。

	正しい (正解)	間違っている (不正解)	わからない
日本	68.7	3.8	27.0
ドイツ	79.0	16.0	4.0
イギリス	77.0	14.0	9.0

<お金に関する考え方と行動の比較>

- ①お金を貯めたり使ったりすることについて長期の計画を立て、それを達成するよう努力している（問 1-6a）については、日本の『あてはまる』（46.3%）は、ドイツ（61.0%）より低い、イギリス（42.0%）より高かった。

問1-6a. お金を貯めたり使ったりすることについて長期の計画を立て、それを達成するよう努力している。

	あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	『あてはまらない』	どちらともいえない	『あてはまる』	どちらかといえばあてはまる	あてはまる
日本	15.4	13.5	28.9	24.1	46.3	26.9	19.4
ドイツ	11.0	6.0	17.0	22.0	61.0	25.0	36.0
イギリス	22.0	9.0	31.0	25.0	42.0	15.0	27.0

- ②先行きのためにお金を貯めるより今お金を使う方が満足感が高いと思う（問 1-6b）については、日本の『あてはまる』（21.5%）はドイツ（20.0%）より

やや高いが、イギリス（29.0%）より低かった。

問1-6b. 先行きのためにお金を貯めるより今お金を使う方が満足感が高いと思う

	あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	「あてはまらない」	どちらともいえない	「あてはまる」	どちらかといえばあてはまる	あてはまる
日本	28.5	20.6	49.1	28.1	21.5	12.7	8.8
ドイツ	29.0	20.0	49.0	30.0	20.0	12.0	8.0
イギリス	21.0	14.0	35.0	35.0	29.0	12.0	17.0

- ③その日暮らして明日のことは明日また考えればよいと考えがちである（問1-6c）については、日本の『あてはまらない』（71.3%）はドイツ（65.0%）、イギリス（50.0%）より高かった。

問1-6c. その日暮らして明日のことは明日また考えればよいと考えがちである

	あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	「あてはまらない」	どちらともいえない	「あてはまる」	どちらかといえばあてはまる	あてはまる
日本	50.0	21.3	71.3	12.1	15.3	9.0	6.3
ドイツ	46.0	19.0	65.0	20.0	15.0	7.0	8.0
イギリス	34.0	16.0	50.0	24.0	26.0	11.0	15.0

- ④「お金は使うためにある」との設問（問2-4b）については、日本の『そう感じている』（50.6%）は、ドイツ（35.0%）やイギリス（36.0%）より高かった。

問2-4b. お金は使うためにある。

	全くそう感じていない	どちらかといえばそう感じていない	「そう感じていない」	どちらともいえない	「そう感じている」	どちらかといえばそう感じている	そう感じている
日本	4.6	12.5	17.1	31.6	50.6	28.7	21.9
ドイツ	14.0	12.0	26.0	39.0	35.0	14.0	21.0
イギリス	17.0	12.0	29.0	34.0	36.0	15.0	21.0

- ⑤「物品の購買前に注意を払うか」についての設問（問2-4c）については、日本の『そうする』（77.0%）はドイツ（82.0%）より低い、イギリス（77.0%）と同水準だった。

問2-4c. 何かを買う前にそれを買う余裕があるかどうか注意深く考える

	いつもそうしない	そうすることはあまりない	「そうしない」	どちらともいえない	「そうする」	そうすることが多い	いつもそうする
日本	2.6	7.9	10.5	12.1	77.0	38.9	38.1
ドイツ	4.0	3.0	7.0	11.0	82.0	23.0	59.0
イギリス	6.0	4.0	10.0	13.0	77.0	15.0	62.0

- ⑥「請求日通りの支払い」に関する設問（問2-4d）については、日本の『そうする』（88.1%）は、ドイツ（96.0%）より低い、イギリス（89.0%）とほぼ同水準だった。

問2-4d. 請求日の期日に遅れずに支払いをする。

	いつもそうしない	そうすることはあまりない	「そうしない」	どちらともいえない	「そうする」	そうすることが多い	いつもそうする
日本	1.6	2.3	3.9	7.3	88.1	19.9	68.2
ドイツ	-	-		3.0	96.0	13.0	83.0
イギリス	3.0	1.0	4.0	6.0	89.0	9.0	80.0

- ⑦お金や金融についての注意についての設問（問 2-4g）をみると、日本の『そうする』（76.6%）はドイツ（87.0%）イギリス（80.0%）より低かった。

問2-4g 自分のお金や金融に関することについては、十分注意している

	いつもそうしない	そうすることはあまりない	「そうしない」	どちらともいえない	「そうする」	そうすることが多い	いつもそうする
日本	2.5	4.3	6.8	16.2	76.6	32.1	44.5
ドイツ	1.0	2.0	3.0	9.0	87.0	23.0	64.0
イギリス	4.0	3.0	7.0	12.0	80.0	15.0	65.0

【参考3】属性別にみた特徴点

ここでは、金融力調査の回答を、性別（2区分：男女）と年齢別（4区分：18～29歳、30～49歳、50～64歳、65歳以上）の8区分でみた場合の主な特徴点を整理している。

I. 自身の将来に対するお金の備えはあるか

- ①「今後お金が必要になると意識している費用」に対する準備状況（図表 I - 1、問 1-2）をみると、概ね、年齢層が高いほど、「準備できている」との回答比率が高かった。例えば、今後お金が必要になると意識している費用で回答比率が特に高かった「自分の医療・介護費用」「家族の医療・介護費用」の準備状況をみると（図表 I - 1）、「準備できていない」との回答比率は、男女とも概ね年齢層が高いほど低くなっている。

（図表 I - 1）「自分の医療・介護費用」「家族の医療・介護費用」の準備状況

上段：回答数（人）、下段：回答比率（％）

	自分の医療・介護費用		家族の医療・介護費用	
	今後お金が必要になると意識している	準備できていない	今後お金が必要になると意識している	準備できていない
【総数】	2254	498 22.1	1977	497 25.1
男性	984	219 22.3	903	226 25.0
男性18～29歳	68	47 69.1	76	55 72.4
男性30～49歳	245	60 24.5	265	76 28.7
男性50～64歳	270	43 15.9	246	35 14.2
男性65歳以上	401	69 17.2	316	60 19.0
女性	1270	279 22.0	1074	271 25.2
女性18～29歳	126	66 52.4	133	78 58.6
女性30～49歳	305	76 24.9	340	98 28.8
女性50～64歳	390	72 18.5	358	59 16.5
女性65歳以上	449	65 14.5	243	36 14.8

- ②「定期的な収入が途絶えた場合への備え」についてみると（図表 I - 2、問 1-3）、

18～29 歳では、他の年齢層に比べて、準備できていない（「いいえ」の回答）比率が高かった。この傾向は、男女とも同じであった。

（図表 I－2）病気・離職等により定期的な収入が途絶えた場合への備えはしているか

上段：回答数（人）、下段：回答比率（％）

	全体	はい	いいえ	無回答
【総数】	3531 100.0	1222 34.6	1023 29.0	1286 36.4
男性	1607 100.0	582 36.2	524 32.6	501 31.2
男性18～29歳	263 100.0	57 21.7	149 56.7	57 21.7
男性30～49歳	483 100.0	234 48.4	220 45.5	29 6.0
男性50～64歳	374 100.0	199 53.2	114 30.5	61 16.3
男性65歳以上	487 100.0	92 18.9	41 8.4	354 72.7
女性	1924 100.0	640 33.3	499 25.9	785 40.8
女性18～29歳	318 100.0	82 25.8	163 51.3	73 23.0
女性30～49歳	602 100.0	276 45.8	219 36.4	107 17.8
女性50～64歳	483 100.0	226 46.8	93 19.3	164 34.0
女性65歳以上	521 100.0	56 10.7	24 4.6	441 84.6

年金生活や無職の人は「無回答」に含まれる。

③将来のことを考えた行動や態度をとっているか（図表 I - 3、問 1-6a～c）についてみると、男性よりも女性の方が、長期志向（先行きのことを考える）を示す回答比率が高い。

（図表 I - 3）次の点について、自身にどの程度あてはまるか

上段：回答数（人）、下段：回答比率（%）

	お金を貯めたり使ったりすることについて長期の計画を立て、それを達成するよう努力している		先行きのためにお金を貯めるより今お金を使う方が満足感が高いと思う		その日暮らして明日のことは明日また考えればよいと考えがちである	
	『あてはまらない』	『あてはまる』	『あてはまらない』	『あてはまる』	『あてはまらない』	『あてはまる』
【総数】	1021 28.9	1637 46.3	1733 49.1	758 21.5	2517 71.3	543 15.3
男性	516 32.1	692 43.1	772 48.1	359 22.3	1134 70.5	260 16.1
男性18～29歳	99 37.7	104 39.6	107 40.7	71 27.0	176 66.9	46 17.5
男性30～49歳	122 25.3	227 47.0	239 49.5	95 19.7	374 77.5	63 13.1
男性50～64歳	110 29.4	163 43.6	214 57.3	70 18.7	278 74.3	49 13.1
男性65歳以上	185 38.0	198 40.6	212 43.5	123 25.3	306 62.8	102 21.0
女性	505 26.2	945 49.1	961 49.9	399 20.8	1383 71.9	283 14.7
女性18～29歳	82 25.8	167 52.6	146 45.9	78 24.5	230 72.4	30 9.5
女性30～49歳	130 21.6	302 50.2	313 52.0	112 18.7	475 78.9	62 10.3
女性50～64歳	120 24.9	244 50.6	282 58.4	73 15.1	363 75.2	58 12.0
女性65歳以上	173 33.2	232 44.5	220 42.2	136 26.1	315 60.4	133 25.5

『あてはまらない』は、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」の合計。
『あてはまる』は、「どちらかといえばあてはまる」と「あてはまる」の合計。

- ④また、投資するときには、お金を損することがあっても仕方がないと思う（図表Ⅰ-4、問 1-6d）については、男性では、『あてはまる』という回答が『あてはまらない』よりも多い一方、女性では、『あてはまらない』という回答の方が多い。

（図表Ⅰ－4）投資するときには、お金を損することがあってもしかたがないと思うか

上段: 回答数(人)、下段: 回答比率(%)

	投資するときには、お金を損することがあってもしかたがないと思う	
	『あてはまらない』	『あてはまる』
【総数】	1421 40.3	1293 36.6
男性	541 33.7	706 43.9
男性18～29歳	85 32.3	108 41.1
男性30～49歳	164 34.0	219 45.4
男性50～64歳	126 33.7	177 47.3
男性65歳以上	166 34.1	202 41.5
女性	880 45.8	587 30.6
女性18～29歳	167 52.5	75 23.6
女性30～49歳	272 45.2	184 30.6
女性50～64歳	230 47.6	166 34.4
女性65歳以上	211 40.5	162 31.1

『あてはまらない』は、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」の合計。『あてはまる』は、「どちらかといえばあてはまる」と「あてはまる」の合計。

Ⅱ. 自身の金融に関する知識や判断能力について（自己評価）

自分のお金や金融に関する知識・判断能力や実際の行動（図表Ⅱ、問 2-4a～d、g）についてみると、18～29 歳では、自身の知識や判断能力に対する自己評価が低いほか、お金を使うこと等についての注意の払い方が相対的に低い傾向がある。自分の金融に関する知識や判断能力の自己評価については、男女とも高齢層になるほど自己評価が高くなっている。

(図表Ⅱ) 次の点について、自身はどのように感じているか

上段: 回答数(人)、下段: 回答比率(%)

	自分の金融に関する知識や判断能力は十分高い		お金は使うためにある	
	『そう感じていない』	『そう感じている』	『そう感じていない』	『そう感じている』
【総数】	1694 47.9	626 17.7	603 17.1	1786 50.6
男性	728 45.3	308 19.1	243 15.1	896 55.8
男性18～29歳	181 68.8	17 6.4	34 12.9	145 55.1
男性30～49歳	223 46.2	70 14.5	84 17.4	239 49.5
男性50～64歳	147 39.3	83 22.2	60 16.0	207 55.3
男性65歳以上	177 36.3	138 28.4	65 13.4	305 62.7
女性	966 50.2	318 16.5	360 18.7	890 46.2
女性18～29歳	225 70.8	21 6.6	50 15.7	136 42.7
女性30～49歳	320 53.2	69 11.5	126 20.9	232 38.5
女性50～64歳	222 46.0	90 18.7	113 23.4	210 43.4
女性65歳以上	199 38.2	138 26.5	71 13.7	312 59.9

『そう感じていない』は、「全くそう感じていない」と「どちらかといえばそう感じていない」の合計。『そう感じている』は、「どちらかといえばそう感じている」と「そう感じている」の合計。

上段: 回答数(人)、下段: 回答比率(%)

	何かを買う前に、それを買う余裕があるかどうか注意深く考える		請求書の期日に遅れずに支払いをする		自分のお金や金融に関することについては、十分注意している	
	『そうしない』	『そうする』	『そうしない』	『そうする』	『そうしない』	『そうする』
【総数】	372 10.5	2720 77.0	136 3.9	3110 88.1	240 6.8	2703 76.6
男性	176 11.0	1223 76.1	64 4.0	1396 86.9	135 8.4	1192 74.1
男性18～29歳	37 14.0	183 69.6	9 3.4	208 79.1	38 14.5	150 57.0
男性30～49歳	45 9.3	382 79.1	23 4.8	420 86.9	33 6.8	371 76.9
男性50～64歳	35 9.4	288 77.0	14 3.7	340 90.9	27 7.2	296 79.2
男性65歳以上	59 12.1	370 75.9	18 3.7	428 87.9	37 7.6	375 77.0
女性	196 10.1	1497 77.8	72 3.7	1714 89.1	105 5.5	1511 78.5
女性18～29歳	33 10.4	240 75.4	16 5.0	255 80.2	18 5.7	217 68.3
女性30～49歳	53 8.8	477 79.2	20 3.3	533 88.6	32 5.3	450 74.7
女性50～64歳	40 8.3	388 80.3	21 4.4	448 92.7	23 4.7	416 86.1
女性65歳以上	70 13.5	392 75.2	15 2.9	478 91.7	32 6.1	428 82.2

『そうしない』は、「いつもそうしない」と「そうすることはあまりない」の合計。
『そうする』は、「そうすることが多い」と「いつもそうする」の合計。

Ⅲ. 金利、インフレ、リターンとリスク等に関する基礎的な知識等

- ① 1年間の金利の計算（図表Ⅲ-1、問 3-1-1）についての正答率は各年齢層ともに高いが、65 歳以上の正答率がやや低い（正答率が低いほか「わからない」との回答が多い）。

（図表Ⅲ－１） 1年間の金利の計算

「100万円を預貯金口座に預け入れました。金利は年率2%だとします。また、この口座には誰もこれ以上お金を預け入れないとします。1年後、口座の残高はいくらになっているでしょうか」

上段: 回答数(人)、下段: 回答比率(%)

	全体	100万円	102万円 (正解)	110万円	その他	わからない	無回答
【総数】	3531 100.0	200 5.7	2741 77.6	42 1.2	77 2.2	465 13.2	6 0.2
男性	1607 100.0	80 5.0	1305 81.2	22 1.4	29 1.8	168 10.5	3 0.2
男性18～29歳	263 100.0	8 3.0	231 87.8	5 1.9	5 1.9	14 5.3	- -
男性30～49歳	483 100.0	17 3.5	438 90.7	7 1.4	5 1.0	16 3.3	- -
男性50～64歳	374 100.0	31 8.3	301 80.5	4 1.1	6 1.6	31 8.3	1 0.3
男性65歳以上	487 100.0	24 4.9	335 68.8	6 1.2	13 2.7	107 22.0	2 0.4
女性	1924 100.0	120 6.2	1436 74.6	20 1.0	48 2.5	297 15.4	3 0.2
女性18～29歳	318 100.0	13 4.1	248 78.0	7 2.2	8 2.5	41 12.9	1 0.3
女性30～49歳	602 100.0	36 6.0	502 83.4	7 1.2	10 1.7	46 7.6	1 0.2
女性50～64歳	483 100.0	40 8.3	392 81.2	2 0.4	14 2.9	35 7.2	- -
女性65歳以上	521 100.0	31 6.0	294 56.4	4 0.8	16 3.1	175 33.6	1 0.2

②インフレの定義（図表Ⅲ-2、問3-2）については、男性では18～29歳が正答率（51.3%）がもっとも低く、女性では65歳以上の正答率（35.9%）がもっとも低い。

（図表Ⅲ－2）インフレについて

「仮に、インフレ率が3%で、普通預金口座であなたが受け取る利息が1%なら、1年後にこの口座のお金を使ってどれくらいの物を購入することができますか」といいますか」

上段：回答数（人）、下段：回答比率（%）

	全体	今日以上に物が買える	今日と全く同じ物が買える	今日以下しか物が買えない (正解)	わからない	無回答
【総数】	3531 100.0	191 5.4	316 8.9	1852 52.4	1160 32.9	12 0.3
男性	1607 100.0	90 5.6	119 7.4	974 60.6	418 26.0	6 0.4
男性18～29歳	263 100.0	30 11.4	23 8.7	135 51.3	74 28.1	1 0.4
男性30～49歳	483 100.0	28 5.8	34 7.0	321 66.5	98 20.3	2 0.4
男性50～64歳	374 100.0	12 3.2	31 8.3	251 67.1	78 20.9	2 0.5
男性65歳以上	487 100.0	20 4.1	31 6.4	267 54.8	168 34.5	1 0.2
女性	1924 100.0	101 5.2	197 10.2	878 45.6	742 38.6	6 0.3
女性18～29歳	318 100.0	23 7.2	32 10.1	118 37.1	141 44.3	4 1.3
女性30～49歳	602 100.0	43 7.1	68 11.3	287 47.7	202 33.6	2 0.3
女性50～64歳	483 100.0	25 5.2	50 10.4	286 59.2	122 25.3	-
女性65歳以上	521 100.0	10 1.9	47 9.0	187 35.9	277 53.2	-

- ③リターンとリスクの関係（図表Ⅲ-3、問 3-3a）については、男女ともに 65 歳以上で正答率が低い（男性 58.7%、女性 44.7%）。

（図表Ⅲ－3）リターンとリスクの関係について

「平均以上の高いリターンのある投資は、平均以上の高いリスクがあるものだ」

上段：回答数（人）、下段：回答比率（%）

	全体	正しい (正解)	間違っている	わからない	無回答
【総数】	3531 100.0	2426 68.7	135 3.8	952 27.0	18 0.5
男性	1607 100.0	1194 74.3	76 4.7	332 20.7	5 0.3
男性18～29歳	263 100.0	199 75.7	14 5.3	49 18.6	1 0.4
男性30～49歳	483 100.0	404 83.6	19 3.9	59 12.2	1 0.2
男性50～64歳	374 100.0	305 81.6	12 3.2	57 15.2	- -
男性65歳以上	487 100.0	286 58.7	31 6.4	167 34.3	3 0.6
女性	1924 100.0	1232 64.0	59 3.1	620 32.2	13 0.7
女性18～29歳	318 100.0	204 64.2	6 1.9	104 32.7	4 1.3
女性30～49歳	602 100.0	448 74.4	12 2.0	140 23.3	2 0.3
女性50～64歳	483 100.0	347 71.8	21 4.3	115 23.8	- -
女性65歳以上	521 100.0	233 44.7	20 3.8	261 50.1	7 1.3

IV. 金利や手数料を必要以上に払うなど、不利な経済行動をとっていないか

クレジットカードでのキャッシング経験（図表IV、問 4-3-5）は、いずれの年齢層でも 1～2 割前後に上り、特に 30～49 歳の男性では 3 割弱に上った。

（図表IV）クレジットカードを使ったキャッシングの経験

「あなたは、クレジットカードを使ってキャッシングをしたことがありますか」

上段：回答数（人）、下段：回答比率（%）

	全体	はい	いいえ	無回答
【総数】	2213 100.0	408 18.4	1763 79.7	42 1.9
男性	991 100.0	217 21.9	756 76.3	18 1.8
男性18～29歳	126 100.0	22 17.5	99 78.6	5 4.0
男性30～49歳	393 100.0	112 28.5	273 69.5	8 2.0
男性50～64歳	265 100.0	53 20.0	209 78.9	3 1.1
男性65歳以上	207 100.0	30 14.5	175 84.5	2 1.0
女性	1222 100.0	191 15.6	1007 82.4	24 2.0
女性18～29歳	191 100.0	25 13.1	159 83.2	7 3.7
女性30～49歳	505 100.0	97 19.2	400 79.2	8 1.6
女性50～64歳	340 100.0	51 15.0	285 83.8	4 1.2
女性65歳以上	186 100.0	18 9.7	163 87.6	5 2.7

V. 金融関係の情報を入手する機会・媒体

暮らしやお金の管理の知識・情報を得る機会（図表V-1、問5-1-2）についてみると、ウェブサイトなどパソコンの利用率は、18～29歳・30～49歳が50～64歳・65歳以上を、大きく上回った。

また、男女別にみると、全ての世代において、「ウェブサイト」との回答比率は、男性が女性を上回っている。一方、「家族・友人との会話」との回答比率は、女性が男性を上回っている。

そのほか、65歳以上では、「そうした知識等に関心ない」とする回答比率が、相対的に高くなっている。

（図表V-1）暮らしやお金の管理に関する知識・情報を得る主な機会

上段：回答数（人）、下段：回答比率（％）

	全体	金融機関 窓口での 相談	講演会・ セミナー への参加	専門家等 への相談	マスメ ディア	ウェブサ イト
【総数】	3531 100.0	647 18.3	109 3.1	165 4.7	1349 38.2	661 18.7
男性	1607 100.0	311 19.4	67 4.2	95 5.9	630 39.2	360 22.4
男性18～29歳	263 100.0	23 8.7	9 3.4	11 4.2	98 37.3	101 38.4
男性30～49歳	483 100.0	86 17.8	15 3.1	32 6.6	232 48.0	179 37.1
男性50～64歳	374 100.0	86 23.0	15 4.0	29 7.8	151 40.4	64 17.1
男性65歳以上	487 100.0	116 23.8	28 5.7	23 4.7	149 30.6	16 3.3
女性	1924 100.0	336 17.5	42 2.2	70 3.6	719 37.4	301 15.6
女性18～29歳	318 100.0	34 10.7	2 0.6	2 0.6	117 36.8	105 33.0
女性30～49歳	602 100.0	97 16.1	18 3.0	27 4.5	291 48.3	169 28.1
女性50～64歳	483 100.0	107 22.2	11 2.3	24 5.0	205 42.4	25 5.2
女性65歳以上	521 100.0	98 18.8	11 2.1	17 3.3	106 20.3	2 0.4

（次頁に続く）

上段:回答数(人)、下段:回答比率(%)

	家族・友人との会話	学校での授業・講義	どこで得るかわからない	そうした知識等に関心ない	その他	無回答
【総数】	1577 44.7	87 2.5	168 4.8	608 17.2	65 1.8	17 0.5
男性	608 37.8	52 3.2	73 4.5	291 18.1	34 2.1	7 0.4
男性18～29歳	134 51.0	32 12.2	14 5.3	38 14.4	6 2.3	- -
男性30～49歳	229 47.4	16 3.3	26 5.4	47 9.7	2 0.4	- -
男性50～64歳	107 28.6	1 0.3	15 4.0	64 17.1	12 3.2	2 0.5
男性65歳以上	138 28.3	3 0.6	18 3.7	142 29.2	14 2.9	5 1.0
女性	969 50.4	35 1.8	95 4.9	317 16.5	31 1.6	10 0.5
女性18～29歳	186 58.5	27 8.5	30 9.4	39 12.3	3 0.9	1 0.3
女性30～49歳	368 61.1	6 1.0	18 3.0	44 7.3	6 1.0	- -
女性50～64歳	224 46.4	1 0.2	19 3.9	74 15.3	5 1.0	- -
女性65歳以上	191 36.7	1 0.2	28 5.4	160 30.7	17 3.3	9 1.7

暮らしやお金の管理に関する知識・情報を得る主な媒体(図表V-2、問5-2-2)についてみると、18～29歳では、「携帯電話」の回答比率が他の年齢層に比べて大幅に高い。女性はどの年齢層でも男性に比べ「信頼できる人との会話等」の回答比率が高い。また、65歳以上では、「そうした知識等に関心ない」とする回答比率が、相対的に高くなっている。

(図表V-2) 暮らしやお金の管理に関する知識・情報を得る主な媒体

上段: 回答数(人)、下段: 回答比率(%)

	全体	テレビ	ラジオ	パソコン	携帯電話	新聞	雑誌 (有料)
【総数】	3531 100.0	1771 50.2	157 4.4	981 27.8	218 6.2	1329 37.6	321 9.1
男性	1607 100.0	762 47.4	83 5.2	541 33.7	96 6.0	671 41.8	176 11.0
男性18～29歳	263 100.0	113 43.0	6 2.3	136 51.7	52 19.8	55 20.9	25 9.5
男性30～49歳	483 100.0	250 51.8	30 6.2	260 53.8	37 7.7	185 38.3	70 14.5
男性50～64歳	374 100.0	179 47.9	16 4.3	103 27.5	4 1.1	201 53.7	45 12.0
男性65歳以上	487 100.0	220 45.2	31 6.4	42 8.6	3 0.6	230 47.2	36 7.4
女性	1924 100.0	1009 52.4	74 3.8	440 22.9	122 6.3	658 34.2	145 7.5
女性18～29歳	318 100.0	174 54.7	4 1.3	138 43.4	74 23.3	39 12.3	27 8.5
女性30～49歳	602 100.0	341 56.6	15 2.5	239 39.7	44 7.3	213 35.4	70 11.6
女性50～64歳	483 100.0	263 54.5	29 6.0	56 11.6	3 0.6	229 47.4	37 7.7
女性65歳以上	521 100.0	231 44.3	26 5.0	7 1.3	1 0.2	177 34.0	11 2.1

上段: 回答数(人)、下段: 回答比率(%)

	チラ シ・D M	無料タ ウン誌 ミニコ ミ誌等	信頼で きる人 との会 話等	何で得 るかわ からない	そうし た知識 等に関 心ない	その他	無回答
【総数】	275 7.8	176 5.0	1083 30.7	96 2.7	522 14.8	48 1.4	25 0.7
男性	114 7.1	66 4.1	391 24.3	38 2.4	256 15.9	16 1.0	10 0.6
男性18～29歳	6 2.3	6 2.3	84 31.9	11 4.2	37 14.1	2 0.8	1 0.4
男性30～49歳	42 8.7	20 4.1	130 26.9	10 2.1	42 8.7	2 0.4	1 0.2
男性50～64歳	23 6.1	20 5.3	86 23.0	5 1.3	49 13.1	4 1.1	2 0.5
男性65歳以上	43 8.8	20 4.1	91 18.7	12 2.5	128 26.3	8 1.6	6 1.2
女性	161 8.4	110 5.7	692 36.0	58 3.0	266 13.8	32 1.7	15 0.8
女性18～29歳	16 5.0	16 5.0	129 40.6	16 5.0	32 10.1	2 0.6	1 0.3
女性30～49歳	51 8.5	43 7.1	253 42.0	16 2.7	35 5.8	6 1.0	2 0.3
女性50～64歳	50 10.4	29 6.0	157 32.5	10 2.1	64 13.3	9 1.9	1 0.2
女性65歳以上	44 8.4	22 4.2	153 29.4	16 3.1	135 25.9	15 2.9	11 2.1

【参考4】知識、考え方、行動の関係からみた特徴点

- 金融・経済の情報に接する頻度が高い人には、知識を問う設問に正答した人が多かった（逆に、金融・経済の情報にあまり接していない人には、知識を問う設問に正答しなかった人が相対的に多かった）。

＜図表A＞情報媒体を通じて金融・経済情報をみる頻度（問6-15）の回答結果とリターンとリスクの関係についての理解度（問3-3a）の回答結果の関係

上段：回答数（人）、下段：回答比率（%）

		平均以上高いリターンには平均以上のリスクあり				
		総数	正しい (正解)	間違っている	わからない	無回答
情報媒体を通じて金融・経済情報を見る頻度	総数	3531 100.0	2426 68.7	135 3.8	952 27.0	18 0.5
	ほぼ毎日	1302 100.0	993 76.3	52 4.0	251 19.3	6 0.5
	週に1回程度	600 100.0	461 76.8	24 4.0	113 18.8	2 0.3
	月に1回程度	266 100.0	198 74.4	11 4.1	57 21.4	0 0.0
	上記より少ない頻度	557 100.0	376 67.5	22 3.9	155 27.8	4 0.7
	まったくみない	782 100.0	387 49.5	26 3.3	364 46.5	5 0.6
	その他	17 100.0	8 47.1	0 0.0	9 52.9	0 0.0
	無回答	7 100.0	3 42.9	0 0.0	3 42.9	1 14.3

- 30～49 歳、50～64 歳で自分の金融知識や判断力に対する自己評価の高い人は、知識を問う設問に正答率が高かった。一方、65 歳以上では、自己評価の高い人でも知識を問う設問の正答率が相対的に低く、「わからない」との回答比率も高かった。

＜図表 B＞自分の金融に関する知識や判断力に対する自己評価（問 2-4a）の回答結果とリターンとリスクの関係についての理解度（問 3-3a）の回答結果の関係

上段：回答数（人）、下段：回答比率（%）

		平均以上高いリターンには平均以上のリスクあり				
		全体	正しい (正解)	間違っている	わからない	無回答
【どちらかといえばそう感じているとそう感じているの 合計】	【総数】	626 100.0	468 74.8	30 4.8	126 20.1	2 0.3
	男性	308 100.0	250 81.2	16 5.2	42 13.6	0 0.0
	男性 18～29 歳	17 100.0	16 94.1	0 0.0	1 5.9	0 0.0
	男性 30～49 歳	70 100.0	65 92.9	1 1.4	4 5.7	0 0.0
	男性 50～64 歳	83 100.0	73 88.0	4 4.8	6 7.2	0 0.0
	男性 65 歳以上	138 100.0	96 69.6	11 8.0	31 22.5	0 0.0
	女性	318 100.0	218 68.6	14 4.4	84 26.4	2 0.6
	女性 18～29 歳	21 100.0	16 76.2	1 4.8	3 14.3	1 4.8
	女性 30～49 歳	69 100.0	53 76.8	2 2.9	14 20.3	0 0.0
	女性 50～64 歳	90 100.0	69 76.7	5 5.6	16 17.8	0 0.0
	女性 65 歳以上	138 100.0	80 58.0	6 4.3	51 37.0	1 0.7

- 問 1-6a～c で次の選択肢を選んだ人（「金融に関する考え方と行動」が長期志向の人）は、知識を問う設問（問 3-1-1、3-2、3-3a）で正答率が高い。

＜図表C＞お金を貯めたり使ったりすることについて長期計画を立て達成努力しているかどうか（問1-6a）の回答結果と100万円で年利2%のときの1年後の口座残高（問3-1-1）、インフレ率3%で利息1%のときの購入物（問3-2）、リターンとリスクの関係についての理解度（問3-3a）の回答結果の関係

お金の貯蓄や使用の長期計画立	問3-1-1 100万円で年利2%のときの1年後の口座残高				
		100万円	102万円 (正解)	110万円	その他
	あてはまらない	4.7	74.8	1.2	2.4
	あてはまる	5.7	80.5	1.1	2.5
	問3-2 インフレ率3%で利息1%のときの購入物				
		今日以上に物 が買える	今日と全く同じ 物を買える	今日以下しか 物を買えない (正解)	わからない
	あてはまらない	4.3	8.1	51.5	35.6
	あてはまる	5.7	8.7	55.2	30.2
	問3-3 a. 平均以上高いリターンには平均以上のリスクあり				
		正しい (正解)	間違っている	わからない	
	あてはまらない	66.1	4.2	29.2	
	あてはまる	71.7	3.5	24.3	

(注) 表の「あてはまらない」、「あてはまる」は、それぞれ「あてはまらない」・「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」の合計。

＜図表D＞今お金を使う方が満足度が高いと思うかどうか（問1-6b）の回答結果と100万円で年利2%のときの1年後の口座残高（問3-1-1）、インフレ率3%で利息1%のときの購入物（問3-2）、リターンとリスクの関係についての理解度（問3-3a）の回答結果の関係

今お金を使う方が満足度が高いと思う	問3-1-1 100万円で年利2%のときの1年後の口座残高				
		100万円	102万円 (正解)	110万円	その他
	あてはまらない	5.8	80.1	1.2	2.4
	あてはまる	5.8	73.1	1.5	2.5
	問3-2 インフレ率3%で利息1%のときの購入物				
		今日以上に物 が買える	今日と全く同じ 物を買える	今日以下しか 物を買えない (正解)	わからない
	あてはまらない	5.7	9.2	55.9	29.0
	あてはまる	5.7	8.0	49.6	36.1
	問3-3 a. 平均以上高いリターンには平均以上のリスクあり				
		正しい (正解)	間違っている	わからない	
	あてはまらない	73.5	3.7	22.5	
	あてはまる	64.4	5.1	29.9	

(注) 表の「あてはまらない」、「あてはまる」は、それぞれ「あてはまらない」・「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」の合計。

＜図表E＞その日暮らして明日のことは明日また考えるかどうか（問1-6c）の回答結果と100万円で年利2%のときの1年後の口座残高（問3-1-1）、インフレ率3%で利息1%のときの購入物（問3-2）、リターンとリスクの関係についての理解度（問3-3a）の回答結果の関係

その日暮らして明日のことは明日考えればよい	問3-1-1 100万円で年利2%のときの1年後の口座残高				
		100万円	102万円 (正解)	110万円	その他
	あてはまらない	5.4	82.1	1.0	2.3
	あてはまる	7.0	65.2	1.8	1.7
	問3-2 インフレ率3%で利息1%のときの購入物				
		今日以上に物が買える	今日と全く同じ物が買える	今日以下しか物が買えない (正解)	わからない
	あてはまらない	5.7	9.2	56.4	28.4
	あてはまる	4.6	9.2	42.7	43.3
	問3-3 a. 平均以上高いリターンには平均以上のリスクあり				
		正しい (正解)	間違っている	わからない	
	あてはまらない	73.7	3.9	22.0	
	あてはまる	54.7	5.2	39.6	

(注) 表の「あてはまらない」、「あてはまる」は、それぞれ「あてはまらない」・「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」の合計。

【今後の金融広報活動、金融教育からみた課題】

- これまでの調査結果を踏まえると、今後の金融広報活動面、金融教育面において留意すべき点は、以下のとおり。
 - ・ わが国における個人のお金や金融に関する行動、考え方は、基本的に長期志向で堅実かつ慎重な傾向にあると考えられるが、これを維持・向上させるためには、社会変化に対応した金融広報・教育が必要。
 - ・ 個人・家計が、長期的な視点を持ち、合理的な行動をしていくためには、お金や金融に関する情報を適切に収集し、正しい知識を身に付けていく必要がある。
 - ・ 金融経済に関する知識面では、リスク商品に対する理解、複利計算、借入金利の法令上の上限などの分野で見受けられた課題に対応していくことが必要となる。
 - ・ 高齢層については、資金面の余裕はあり、自分の知識や判断力に対する評価が高いが、金融商品のリスクに関連した設問等知識にかかる正答率や、新たな知識・情報収集に対する関心が、他の年齢層より低く、こうした点に特に留意した知識普及面での工夫が必要となる。
 - ・ 若年層は、将来への備えはこれから、と考えているが、お金の使い方に関して注意を払っている度合いが他の年齢層より低い傾向がある。今後一層の知識普及面での働きかけ・金融教育活動の展開が必要となる。
 - ・ 男女対比では各々の特性に応じて対応を考えるべき要素につき、働きかけを工夫していくことが必要となる。

以 上

【調査結果＜調査票（単純集計データ）＞】

（注）回答欄に併記された数値は、断りのない限り、回答比率（％、小数第2位四捨五入）を示す。回答ゼロの場合は一で示している。なお、無回答者を掲記していないこともあり、単数回答項目であっても、その回答比率の合計は必ずしも100（％）にならない。

問1－1 あなたが今後お金が必要になると意識しているのは、どのような費用ですか。この中からあてはまるものをいくつでも選んでください。（○はいくつでも）

1	自分の結婚費用	11.9
2	子どもの結婚費用	20.8
3	子どもの教育にかかる費用	32.6
4	自分の医療・介護費用	63.8
5	家族の医療・介護費用	56.0
6	車の購入費用	22.8
7	住宅の購入費用	16.5
8	この中がない・わからない	6.4

【問1－1で「1」～「7」を回答した方に】

問1－2 その費用について資金の準備はできていますか。また、「準備ができています」と考える費用については、それぞれどのように準備されていますか。この中から準備できている資金をいくつでも選んでください。（○はいくつでも）

	準備できている						準備できていない
	預・貯金	保険	投資信託等	債券・株式	不動産	銀行等からの借入れ （予定も含む）	その他
自分の結婚費用 →	39.8	1.9	0.7	0.5	0.2	2.1	57.6
子どもの結婚費用 →	46.7	8.3	1.8	1.0	1.9	2.6	46.9
子どもの教育にかかる費用 →	49.5	29.3	1.9	0.1	3.5	1.7	31.7
自分の医療・介護費用 →	52.4	50.6	3.8	2.7	0.4	1.6	22.1
家族の医療・介護費用 →	49.4	49.1	3.4	2.0	0.9	1.6	25.1
車の購入費用 →	50.9	2.5	2.1	0.5	7.8	2.4	39.3
住宅の購入費用 →	31.6	2.1	1.9	2.1	21.0	1.7	48.5

【年金生活や無職の方以外の方に】

問 1－3 あなたは、病気・離職等により定期的な収入が途絶えた場合への備えはしていますか。
(○は1つだけ)

1 はい 34.6

2 いいえ 29.0

【問 1－3で「1 はい」と回答した方に】

問 1－4 どのように備えていますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|------|
| 1 預・貯金 | 82.3 |
| 2 保険 | 54.6 |
| 3 株式・債券・投資信託等 | 6.6 |
| 4 不動産 | 5.4 |
| 5 その他（ ） | 2.0 |

【問 1－3で「2 いいえ」と回答した方に】

問 1－5 その理由を教えてください。
(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------------|------|
| 1 現在の収入では、将来に備えるまでの余裕がないから | 73.0 |
| 2 とりあえず公的なサポート（医療保険、失業保険等）によってまかなえるから | 17.1 |
| 3 病気・離職等により定期的な収入が途絶えるおそれは極めて低いから | 10.6 |
| 4 親族からの援助に頼れるから | 8.2 |
| 5 いざとなったら家屋を売却できるから | 3.6 |
| 6 その他（ ） | 3.8 |

【全員の方に】

問 1－6 次の点について、ご自身にどの程度あてはまるか教えてください。(○は1つずつ)

		あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまる	あてはまる
a. お金を貯めたり使ったりすることについて長期の計画を立て、それを達成するよう努力している	→	15.4	13.5	24.1	26.9	19.4
b. 先行きのためにお金を貯めるより今お金を使う方が満足感が高いと思う	→	28.5	20.6	28.1	12.7	8.8
c. その日暮らしで明日のことは明日また考えればよいと考えがちである	→	50.0	21.3	12.1	9.0	6.3
d. 投資するときには、お金を損することがあってもしかたがないと思う	→	30.5	9.8	21.8	18.0	18.6

問 1－7 あなたは、自分が受け取れる公的年金について次のうちどれを知っていますか。この中から知っているものをいくつでも選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|------|
| 1 自分が加入している公的年金の種類 | 79.6 |
| 2 自分の被保険者としての種類（自分が第何号被保険者か） | 38.5 |
| 3 受給資格を得るための必要年数 | 40.2 |
| 4 満額支給のための必要加入年数 | 31.9 |
| 5 受け取れる金額 | 33.0 |
| 6 （自営業の方の場合）国民年金に追加して加入できる制度・金額 | 10.3 |
| 7 どれも知らない | 11.0 |

問1-8 あなたは、老後の費用について、年金でまかなえると思いますか。なお、年金には、「公的年金」、「企業年金」を含み、「個人年金」を除きます。(○は1つだけ)

- | | | | |
|---|--------------|----------|------|
| 1 | 年金のみでまかなえる | → 問2-1 へ | 12.3 |
| 2 | 年金のみではまかなえない | | 78.3 |
| 3 | わからない | → 問2-1 へ | 9.0 |

【問1-8で「2 年金のみではまかなえない」と回答した方に】
問1-9 他の資金での準備ができていますか。(○は1つだけ)

- | | | | | | |
|---|-------|------|---|--------|------|
| 1 | できている | 37.8 | 2 | できていない | 62.0 |
|---|-------|------|---|--------|------|

【問1-9で「1 できている」と回答した方に】
問1-10 どのような資金で準備がされていますか。
この中から3つまで選んでください。
(○は3つまで)

- | | | |
|---|---------|------|
| 1 | 預・貯金 | 78.0 |
| 2 | 個人年金 | 36.7 |
| 3 | 保険 | 34.8 |
| 4 | 有価証券 | 6.9 |
| 5 | 賃貸不動産 | 5.8 |
| 6 | 親族からの援助 | 5.6 |
| 7 | 退職金 | 16.4 |
| 8 | その他 () | 3.4 |

【問1-9で「2 できていない」と回答した方に】
問1-11 その理由はどうしてでしょうか。
(○は3つまで)

- | | | |
|---|-----------------------------------|------|
| 1 | まだ年齢が若く現実的でないから | 34.2 |
| 2 | 現在の収入では、将来に備えるまでの余裕がないから | 71.9 |
| 3 | 社会保障などの制度の変更もあり得るため、計画が立てにくいから | 24.4 |
| 4 | 国・地方公共団体などの公的なサポートに頼ることが可能と思われるから | 4.4 |
| 5 | その他 () | 4.6 |

【全員の方に】

問2-1 あなたの過去1年間における月々の「お金のやりくり」は、次のどの表現がいちばん当てはまりますか。この中から最もあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つだけ)

- | | | |
|---|-------------|------|
| 1 | とても苦しい月があった | 18.1 |
| 2 | 少し苦しい月があった | 42.8 |
| 3 | 苦しい月はなかった | 38.7 |

問2-2 過去1年間、あなたの収入と支出の関係は、次のどのような状況でしたか。(○は1つだけ)

(注) ご自分の収入と支出を単独で捉えることが難しい方は、世帯の収入と支出についてお答えくださっても結構です。

- | | | |
|---|---------------|------|
| 1 | 収入が支出を上回った | 31.6 |
| 2 | 収入と支出はほぼ同じだった | 38.2 |
| 3 | 収入が支出を下回った | 23.8 |
| 4 | わからない | 6.3 |

問2-3 賞与の減少などにより予定していた収入が得られなかったり、急な出費の発生など、収入が支出を下回る状況が起きそうなとき（あるいは、起きたとき）、あなたは、どのようにしてやりくりしますか。この中からあてはまるものを3つまで選んでください。（○は3つまで）

- | | | |
|----|----------------------|------|
| 1 | 貯蓄を取り崩す | 74.5 |
| 2 | 支出を切り詰める | 61.1 |
| 3 | いつもより多く稼ぐ（残業、アルバイト等） | 11.9 |
| 4 | 持っているものを売ってお金を得る | 6.5 |
| 5 | 家族や友人からお金を借りる | 10.9 |
| 6 | クレジットカードで支払う | 9.4 |
| 7 | クレジットカードのキャッシングを利用する | 2.4 |
| 8 | 金融機関のフリーローンを利用する | 2.0 |
| 9 | 消費者金融会社から借入れをする | 0.3 |
| 10 | 支払いを遅らせる | 5.8 |
| 11 | その他（ ） | 2.0 |

問2-4 次の点について、ご自身はどのように感じておられるか、また、日頃どのようにしておられるかを教えて下さい。(○は1つずつ)

		全くそう 感じていない	どちらかといえば そう感じていない	どちらとも いえない	どちらかといえば そう感じている	そう感じている
a. 自分の金融に関する知識や判断能力は十分高い	→	21.8	26.1	33.9	11.6	6.1
b. お金は使うためにある	→	4.6	12.5	31.6	28.7	21.9

		いつも そうする	どちらとも いえない	そうすることは あまりない	いつも そうしない
c. 何かを買う前に、それを買う余裕があるかどうか注意深く考える	→	38.1	38.9	12.1	7.9
d. 請求書の期日に遅れずに支払いをする	→	68.2	19.9	7.3	1.6
e. お金が貯まるまで待つより、クレジットカードで買い物をする	→	2.7	7.4	14.3	16.5
f. クレジットカードで分割払いやりボルビング払いを利用するより、支出を切り詰める	→	36.1	21.0	16.9	6.4
g. 自分のお金や金融に関することについては、十分注意している	→	44.5	32.1	16.2	4.3

【全員の方に】

問3-1-1 100万円を預貯金口座に預け入れました。金利は年率2%だとします。また、この口座には誰もこれ以上お金を預け入れないとして。1年後、口座の残高はいくらになっているでしょうか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---|--------|------|
| 1 | 100万円 | 5.7 |
| 2 | 102万円 | 77.6 |
| 3 | 110万円 | 1.2 |
| 4 | その他() | 2.2 |
| 5 | わからない | 13.2 |

問3-1-2 では、5年後には口座の残高はいくらになっているでしょうか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---|------------|------|
| 1 | 110万円より多い | 30.5 |
| 2 | ちょうど110万円 | 32.6 |
| 3 | 110万円より少ない | 20.1 |
| 4 | その他() | 0.7 |
| 5 | わからない | 15.9 |

問3-2 仮に、インフレ率が3%で、普通預金口座であなたが受け取る利息が1%なら、1年後にこの口座のお金を使ってどれくらいの物を購入することができますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---|----------------|------|
| 1 | 今日以上に物が買える | 5.4 |
| 2 | 今日と全く同じだけ物が買える | 8.9 |
| 3 | 今日以下しか物が買えない | 52.4 |
| 4 | わからない | 32.9 |

問3-3 次の文章が正しいか間違っているか教えて下さい。(○は1つずつ)

	正しい	間違っている	わからない
a. 平均以上の高いリターンのある投資は、平均以上の高いリスクがあるものだ →	68.7	3.8	27.0
b. 高インフレの時には、生活に使われるものやサービスの値段全般が急速に上昇する →	54.0	9.0	36.3
c. 一社の株を買うことは、通常、株式投資信託を買うよりも安全な投資である →	5.4	34.9	59.0

問3-4 年利5%の外貨預金と、年利0.1%程度の国内の定期預金と比べると、どちらが有利な金融商品だと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--|------|
| 1 利回りが良いので、年利5%の外貨預金の方が年利0.1%程度の国内の定期預金より有利である | 12.7 |
| 2 為替相場の変動を考えると、年利5%の外貨預金の方が年利0.1%の国内の定期預金より有利である | 5.2 |
| 3 為替相場の変動を考えると、年利0.1%の国内の定期預金の方が年利5%の外貨預金より有利である | 8.0 |
| 4 為替相場の変動を考えると、どちらともいえない | 36.7 |
| 5 わからない | 36.8 |

問3-5 投資信託は定期預金に比べ、有利な金融商品だと思いますか。(○は1つだけ)

- | | | | | | |
|------|------|-------|------|---------|------|
| 1 はい | 17.6 | 2 いいえ | 33.8 | 3 わからない | 47.7 |
|------|------|-------|------|---------|------|

問3-6 「特別キャンペーン 円預金年利●%」と書かれたチラシがあるとします。チラシには、「当初1ヶ月は年利●%、その後は・・・」という小さい文字で書かれた詳しい説明がありました。このチラシを見て、あなたはどのように行動しますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--|------|
| 1 詳しい説明は読まずに預金する | 2.9 |
| 2 詳しい説明を自分で読んでから預金するかどうかを決める | 17.5 |
| 3 詳しい説明の部分について、金融機関の担当者に説明を求めてから預金するかどうかを決める | 26.9 |
| 4 詳しい説明の部分について、家族・知人などに説明を求めてから預金するかどうかを決める | 11.0 |
| 5 詳しい説明は読まずに預金しない | 38.9 |
| 6 その他 () | 1.3 |

問3-7 年金定期便が投函されていましたが、自分の過去に働いた企業での勤務年数が記載されていなかったとします。あなたはどのようにしますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------------|------|
| 1 そのままにする | 7.1 |
| 2 勤務年数の記載が正しくないことを連絡先に伝える | 90.1 |
| 3 その他 () | 1.9 |

問3-8 路上で声を掛けられてアンケートに答え、勧められて不要な品物を購入してしまいました。購入後1週間が経過していますが、クーリング・オフできるでしょうか。(○は1つだけ)

- | | | | | | |
|-------|------|--------|------|---------|------|
| 1 できる | 52.6 | 2 できない | 32.8 | 3 わからない | 14.3 |
|-------|------|--------|------|---------|------|

問3-9 今月の生活費が足りなくなり、金融業者から消費者ローンを年利23%でお金を借りました。この利息は後で当然支払わなければならない、と思いますか。(○は1つだけ)

- | | | | | | |
|------|------|-------|------|---------|------|
| 1 はい | 42.8 | 2 いいえ | 37.7 | 3 わからない | 18.8 |
|------|------|-------|------|---------|------|

問3-10 仮に、家族が振り込め詐欺に遭い、30万円を見知らぬ人に送金してしまったとします。この場合、相談すべき先はどこだと思いますか。(○はいくつでも)

1 消費生活センター	48.5
2 司法書士	3.0
3 弁護士	20.0
4 警察	85.0
5 市区町村の相談窓口	21.4
6 振り込みを行った金融機関	24.4
7 相談すべきでない	0.3
8 その他 ()	1.5

問4-1 失礼ですが、あなたは、過去に金融機関から一カ月の生活費相当額を超える額のお金を借りたことがありますか。(○は1つだけ)

1 はい	13.2	2 いいえ	86.6
↓		→ 問4-2へ	

【問4-1で「1 はい」と回答した方に】

問4-1-1 その時のご自分の状況にふさわしいローンを選ぶために、他の金融機関あるいは他のローンと比較しましたか。(○は1つだけ)

1 はい	44.5	2 いいえ	55.5
↓		↓	

【問4-1-1で「1 はい」と回答した方に】

問4-1-2 どのような点を比較しましたか。(○はいくつでも)

1 金利水準	63.3
2 固定金利か変動金利か	40.1
3 金利の優遇措置	27.5
4 担保の有無	26.1
5 返済方法	61.4
6 返済期間	55.1
7 金融機関の規模・評判	23.2
8 販売員・窓口担当者への信頼感	7.2
9 家族・知人がどれを勧めるか	2.9
10 専門的なアドバイザーがどれを勧めるか	2.4
11 その他 ()	1.9

【問4-1-1で「2 いいえ」と回答した方に】

問4-1-3 複数の金融機関(ローン)を比較しなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 比較するのが面倒だったから	23.3
2 どこも同じで比較するの必要がないと思ったから	29.8
3 家族・知人からその金融機関(ローン)を勧められたから	12.0
4 専門的なアドバイザーからその金融機関(ローン)を勧められたから	14.0
5 仲介業者のあっせんなど事情があってその金融機関(ローン)しか選べなかったから	17.1
6 その他 ()	16.7

【全員の方に】

問4-2 あなたは、過去に一カ月の生活費相当額を超える額のお金を運用したことがありますか。
(○は1つだけ)

1	はい	15.0	2	いいえ	→ 問4-3へ	84.6
	↓					

【問4-2で「1 はい」と回答した方に】

問4-2-1 その時のご自分の状況を踏まえて最も有利と考えられる金融商品を選ぶのに、他の金融機関あるいは他の金融商品を比較しましたか。(○は1つだけ)

1	はい	59.4	2	いいえ	40.6
	↓			↓	

【問4-2-1で「1 はい」と回答した方に】

問4-2-2 どのような点を比較しましたか。
(○はいくつでも)

- | | | |
|----|----------------|------|
| 1 | 収益の安定性 | 53.7 |
| 2 | 将来の値上がり期待 | 46.3 |
| 3 | 元本保証の有無 | 39.4 |
| 4 | 金融機関の規模・評判 | 27.6 |
| 5 | 販売員・窓口担当者への信頼感 | 18.4 |
| 6 | 現金への換えやすさ | 22.5 |
| 7 | 商品内容の理解のしやすさ | 14.0 |
| 8 | 家族・知人の勧め | 9.2 |
| 9 | 専門的なアドバイザーの勧め | 16.2 |
| 10 | その他 () | 3.5 |

【問4-2-1で「2 いいえ」と回答した方に】

問4-2-3 複数の金融機関（金融商品）を比較しなかった理由は何ですか。
(○はいくつでも)

- | | | |
|---|---|------|
| 1 | 比較するのが面倒だったから | 26.0 |
| 2 | どこも同じで比較する必要がないと思ったから | 28.8 |
| 3 | 家族・知人からその金融機関（金融商品）を勧められたから | 16.3 |
| 4 | 専門的なアドバイザーからその金融機関（金融商品）を勧められたから | 20.0 |
| 5 | 仲介業者のあっせんなど事情があってその金融機関（金融商品）しか選べなかったから | 6.5 |
| 6 | その他 () | 16.7 |

【全員の方に】

問4-3 失礼ですが、あなたはクレジットカードを何枚お持ちでしょうか。(○は1つだけ)

1	持っていない（0枚）	→ 問4-4へ	37.1
2	1～3枚	→ 問4-3-1へ	52.5
3	4～6枚		9.0
4	7枚以上		1.2

【問4-3で「2」「3」「4」のいずれかを回答した方に】

問4-3-1 クレジットカードを選ぶ際、他のクレジットカードと比較しましたか。(○は1つだけ)

1 はい 34.3

2 いいえ 65.4

【問4-3-1で「1 はい」と回答した方に】

問4-3-2 どのような点を比較しましたか。
(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|------|
| 1 ポイント、マイレージ制度などの特典 | 71.8 |
| 2 現金還付(キャッシュバック)制度 | 20.1 |
| 3 商品の割引制度 | 29.3 |
| 4 ショッピング枠の利用額上限 | 9.7 |
| 5 キャッシング額の利用額上限 | 4.3 |
| 6 入会費・年会費 | 70.9 |
| 7 クレジットカード(会社)の規模・評判 | 27.2 |
| 8 保険や補償制度の充実 | 14.3 |
| 9 販売員・窓口担当者への信頼感 | 3.7 |
| 10 家族・知人がどれを勧めるか | 4.9 |
| 11 専門的なアドバイザーがどれを勧めるか | 0.7 |
| 12 その他() | 2.2 |

【問4-3-1で「2 いいえ」と回答した方に】

問4-3-3 複数のクレジットカードを比較しなかった理由は何ですか。
(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|------|
| 1 比較するのが面倒だったから | 24.5 |
| 2 どこも同じで比較する必要がないと思ったから | 32.1 |
| 3 家族・知人からそのクレジットカードを勧められたから | 16.2 |
| 4 専門的なアドバイザーからそのクレジットカードを勧められたから | 11.3 |
| 5 事情があってそのクレジットカードしか選べなかったから | 23.5 |
| 6 その他() | 8.8 |

【問4-3で「2」「3」「4」のいずれかを回答した方に】

問4-3-4 クレジットカードを使う時、一括払いが可能な状況であっても、リボルビング払いを選ばれたことはありますか。(○は1つだけ)

1 はい 14.0 2 いいえ 80.7 3 わからない 2.3

問4-3-5 あなたは、クレジットカードを使ってキャッシングをしたことがありますか。(○は1つだけ)

1 はい 18.4

2 いいえ → 問4-4へ 79.7

【問4-3-5で「1 はい」と回答した方に】

問4-3-6 そのとき、普通預金からも同額のお金を引き出すことができましたか。(○は1つだけ)

1 はい 48.5 2 いいえ 39.2 3 わからない 12.3

【全員の方に】

問4-4 失礼ですが、あなたは、生命保険に入っていますか。(○は1つだけ)

1 はい 78.5
↓

2 いいえ → 問4-5-1へ 21.3

【問4-4で「1 はい」と回答した方に】

問4-4-1 どの位の頻度で保障内容を見直していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------------|------|
| 1 1～5年ごと | 25.0 |
| 2 6～10年ごと | 15.8 |
| 3 11～15年ごと | 4.1 |
| 4 まだ見直していないが、今後見直すつもり | 21.4 |
| 5 まだ見直しておらず、今後も見直すつもりはない | 27.3 |
| 6 その他 () | 5.6 |

問4-4-2 現在加入している生命保険を選ぶ際、他の生命保険と比較しましたか。(○は1つだけ)

1 はい 39.8
↓

【問4-4-2で「1 はい」と回答した方に】

問4-4-3 どのような点を比較しましたか。
(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1 保障される範囲
(死亡保障、医療・介護保障など) | 81.5 |
| 2 貯蓄機能
(満期保険金、祝い金や年金給付など) | 30.5 |
| 3 保険料 | 72.7 |
| 4 保険金・給付金の金額 | 39.5 |
| 5 保険会社の規模・評判 | 23.1 |
| 6 販売員・窓口担当者への信頼感 | 20.1 |
| 7 解約のしやすさ、解約返戻金の金額 | 9.4 |
| 8 商品内容の理解のしやすさ | 14.1 |
| 9 家族・知人がどれを勧めるか | 9.6 |
| 10 専門的なアドバイザーがどれを勧めるか | 6.9 |
| 11 その他 () | 1.4 |

2 いいえ 59.6
↓

【問4-4-2で「2 いいえ」と回答した方に】

問4-4-4 複数の生命保険を比較しなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|------|
| 1 比較するのが面倒だったから | 13.6 |
| 2 どこも同じで比較する必要がないと思ったから | 8.7 |
| 3 家族・知人からその生命保険を勧められたから | 48.0 |
| 4 専門的なアドバイザーからその生命保険を勧められたから | 13.0 |
| 5 事情があってその生命保険しか選べなかったから | 10.7 |
| 6 保険会社の人の説明で納得したから | 19.1 |
| 7 その他 () | 6.8 |

【全員の方に】

問4-5-1 失礼ですが、過去10年間に、2010年6月17日までに借りた場合は年利29.2%、2010年6月18日以降に借りた場合は年利20%を超える利息を払って、お金を借りたことがありますか。(○は1つだけ)

1 はい 2.1 2 いいえ 92.1 3 わからない 5.5

問4-5-2 借入金額の元本が10万円未満の場合は年利20%、10万円以上100万円未満の場合は年利18%、100万円以上の場合は年利15%を超える金利を支払ったことがありますか。(○は1つだけ)

1 はい 2.6 2 いいえ 89.2 3 わからない 6.8

【問4-5-1または問4-5-2で「1 はい」と回答した方に】

問4-5-3 過払い返還請求をされましたか。(○は1つだけ)

1 はい 24.6 2 いいえ 53.4

【全員の方に】

問4-6 失礼ですが、借金の取り立てで職場に金融業者の訪問を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

1 はい 0.7 2 いいえ 98.2

問4-7 失礼ですが、あなたは、今、住宅ローンを借りていますか。(○は1つだけ)

1 はい 14.7 2 いいえ → 問4-8へ 83.4

【問4-7で「1 はい」と回答した方に】

問4-7-1 将来にわたる収入と支出を考慮した上で、支障なく実施可能な時は繰り上げ返済をするようにしていますか。(○は1つだけ)

1 はい 56.0 2 いいえ 37.8 3 わからない 5.8

【全員の方に】

問4-8 訪問販売やキャッチセールスなどによって購入した商品やサービスについて、本当に欲しいものではなかったと気づいた時、クーリング・オフ制度の利用を検討(あるいは、利用)しましたか。(○は1つだけ)

1 訪問販売やキャッチセールスなどで購入したことがない 79.7
 2 訪問販売やキャッチセールスなどで購入したもので、欲しいものではなかったことはない 2.7
 3 訪問販売やキャッチセールスなどで購入したもので、欲しいものではなかったとしても、
 クーリング・オフを検討したことはない 4.8
 4 クーリング・オフを検討したことがある 9.3
 5 わからない 2.9

問4-9 あなたは、悪質商法や振り込め詐欺などの被害に遭ったことがありますか。(○は1つだけ)

1 はい 3.2

2 いいえ $\longrightarrow$ 問5-1-1へ 96.4



【問4－9で「1 はい」と回答した方に】

問4-9-1 そのとき、消費生活センターや警察に連絡しましたか。(○は1つだけ)

1 はい 38.4

2 いいえ 60.7

【全員の方に】

問5-1-1 あなたは、金融商品を選択する際の知識・情報を主にどのような機会に得ていますか。金融商品とは、金融機関等への預貯金、有価証券、保険などのこととします。(○は3つまで)

1	金融機関の窓口での相談（販売員の説明）	42.6
2	講演会・セミナーへの参加	2.6
3	専門家・アドバイザーへの相談	8.3
4	マスメディア（テレビ・ラジオ番組、新聞・雑誌等）	25.8
5	ウェブサイト	17.1
6	家族・友人との会話（クチコミ）	35.5
7	学校（社会人向けを含む）での授業・講義	2.5
8	どこで知識・情報を取得すればいいかわからない	4.2
9	金融商品を選択することはない	17.7
10	その他（ ）	1.8

問5-1-2 あなたは、金融商品以外の暮らしやお金の管理に関する知識・情報を主にどのような機会に得ていますか。(○は3つまで)

1	金融機関の窓口での相談（販売員の説明）	18.3
2	講演会・セミナーへの参加	3.1
3	専門家・アドバイザーへの相談	4.7
4	マスメディア（テレビ・ラジオ番組、新聞・雑誌等）	38.2
5	ウェブサイト	18.7
6	家族・友人との会話（クチコミ）	44.7
7	学校（社会人向けを含む）での授業・講義	2.5
8	どこで知識・情報を取得すればいいかわからない	4.8
9	そうした知識・情報に関心がない	17.2
10	その他（ ）	1.8

問5-2-1 あなたは、金融商品を選択する際の知識・情報を主にどのような媒体から得ていますか。
(○は3つまで)

1	テレビ	41.3
2	ラジオ	3.3
3	パソコン（インターネットで関連サイトを検索）	27.4
4	携帯電話（携帯サイト）	5.3
5	新聞	35.6
6	雑誌（有料）	7.8
7	チラシ、ダイレクトメール	9.0
8	タウン誌、ミニコミ誌、公共機関の広報誌（無料）	4.1
9	信頼できる人との会話・アドバイス	31.0
10	なにで知識・情報を取得すればいいかわからない	3.0
11	金融商品を選択することはない	17.7
12	その他（	） 2.0

問5-2-2 あなたは、金融商品以外の暮らしやお金の管理に関する知識・情報を主にどのような媒体から得ていますか。(○は3つまで)

1	テレビ	50.2
2	ラジオ	4.4
3	パソコン（インターネットで関連サイトを検索）	27.8
4	携帯電話（携帯サイト）	6.2
5	新聞	37.6
6	雑誌（有料）	9.1
7	チラシ、ダイレクトメール	7.8
8	タウン誌、ミニコミ誌、公共機関の広報誌（無料）	5.0
9	信頼できる人との会話・アドバイス	30.7
10	なにで知識・情報を取得すればいいかわからない	2.7
11	そうした知識・情報に関心がない	14.8
12	その他（	） 1.4

～ここからはあなたご自身のことについてお伺いします～

問6-1 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

- | | | | |
|-------|------|-------|------|
| 1 男 性 | 45.5 | 2 女 性 | 54.5 |
|-------|------|-------|------|

問6-2 あなたの満年齢を教えてください。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|------|
| 1 18～19歳 | 2.5 |
| 2 20～29歳 | 14.0 |
| 3 30～39歳 | 16.5 |
| 4 40～49歳 | 14.2 |
| 5 50～59歳 | 14.0 |
| 6 60～64歳 | 10.3 |
| 7 65～69歳 | 7.6 |
| 8 70歳以上 | 20.9 |

問6-3 同居されている方は何人ですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---------------------|-----------|------|
| 1 0人(自分ひとり) | → 問6-4へ | 8.6 |
| 2 1人(自分を含めると2人) | → 問6-3-1へ | 23.2 |
| 3 2人以上(自分を含めると3人以上) | → 問6-3-1へ | 68.1 |

【問6-3で「2」または「3」と回答した方に】

問6-3-1 同居されている方は、次のうちどなたか教えて下さい。(○はいくつでも)

- | | |
|----------|------|
| 1 配偶者 | 71.8 |
| 2 子 | 54.0 |
| 3 親 | 31.5 |
| 4 その他() | 15.4 |

【全員の方に】

問6-4 あなたは、収入のある仕事をされていますか。(○は1つだけ)

(注) 収入のある仕事には家業(農業を含む)の手伝いや内職を含みます。

- | | | | |
|-------|------|-------|------|
| 1 は い | 61.1 | 2 いいえ | 38.9 |
|-------|------|-------|------|

【問6-4で「1 はい」と回答した方に】

問6-4-1 勤務形態を次の中からお選びください。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|------|
| 1 会社などの役員・自営業主など | 16.9 |
| 2 正規の職員・従業員 | 46.3 |
| 3 労働者派遣事業所の派遣社員 | 1.2 |
| 4 契約社員・嘱託 | 6.0 |
| 5 パート・アルバイト | 25.3 |

6 その他() 3.8

【問6-4で「2 いいえ」と回答した方に】

問6-4-2 あなたの立場は次のうち、どれが最もあてはまりますか(○は1つだけ)

- | | |
|------------------------|------|
| 1 家事をしている(育児・介護・看護を含む) | 33.8 |
| 2 年金・恩給で生活している | 47.8 |
| 3 通学している(予備校・各種学校を含む) | 8.6 |
| 4 その他無職() | 6.8 |

問6-5 あなたは世帯主ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|------|
| 1 世帯主である | 44.4 |
| 2 世帯主の配偶者である | 33.8 |
| 3 どちらでもない | 21.8 |
- 問6-7-1へ

【問6-5で「1 世帯主である」と回答した方に】

問6-6-1 配偶者の方は収入のある仕事をされていますか。(○は1つだけ)

(注) 収入のある仕事には家業(農業を含む)の手伝いや内職を含みます。

- | | | | | | |
|------|------|-------|------|-----------|------|
| 1 はい | 36.1 | 2 いいえ | 36.7 | 3 配偶者はいない | 25.3 |
|------|------|-------|------|-----------|------|

【問6-6-1で「1 はい」と回答した方に】

問6-6-2 勤務形態を次の中からお選びください。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|------|
| 1 会社などの役員・自営業主など | 14.3 |
| 2 正規の職員・従業員 | 30.2 |
| 3 労働者派遣事業所の派遣社員 | 0.9 |
| 4 契約社員・嘱託 | 5.7 |
| 5 パート・アルバイト | 40.6 |
| 6 その他() | 8.0 |

【問6-6-1で「2 いいえ」と回答した方に】

問6-6-3 その立場は次のうち、どれが最もあてはまりますか(○は1つだけ)

- | | |
|------------------------|------|
| 1 家事をしている(育児・介護・看護を含む) | 61.8 |
| 2 年金・恩給で生活している | 32.3 |
| 3 通学している(予備校・各種学校を含む) | 0.3 |
| 4 その他無職() | 3.8 |

【問6-5で「2 世帯主の配偶者である」または「3 どちらでもない」と回答した方に】

問6-7-1 世帯主の方は収入のある仕事をされていますか。(○は1つだけ)

(注) 収入のある仕事には家業(農業を含む)の手伝いや内職を含みます。

- | | | | |
|------|------|-------|------|
| 1 はい | 72.9 | 2 いいえ | 24.1 |
|------|------|-------|------|

【問6-7-1で「1 はい」と回答した方に】

問6-7-2 勤務形態を次の中からお選びください。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|------|
| 1 会社などの役員・自営業主など | 28.4 |
| 2 正規の職員・従業員 | 58.5 |
| 3 労働者派遣事業所の派遣社員 | 0.3 |
| 4 契約社員・嘱託 | 3.7 |
| 5 パート・アルバイト | 5.7 |
| 6 その他() | 3.0 |

【問6-7-1で「2 いいえ」と回答した方に】

問6-7-3 その立場は次のうち、どれが最もあてはまりますか(○は1つだけ)

- | | |
|------------------------|------|
| 1 家事をしている(育児・介護・看護を含む) | 5.7 |
| 2 年金・恩給で生活している | 83.7 |
| 3 通学している(予備校・各種学校を含む) | 2.1 |
| 4 その他無職() | 6.8 |

【問6-3で「2」または「3」と回答した方に】

問6-8 世帯主・配偶者以外の方で収入のある仕事をしている人はいらっしゃいますか。(○は1つだけ)

1	はい	37.1	2	いいえ	55.2
---	----	------	---	-----	------

問6-9 あなたは、どちらかというと家計を取り仕切る方ですか。(○は1つだけ)

1	はい	42.3	2	いいえ	51.6
---	----	------	---	-----	------

【全員の方に】

問6-10-1 あなたご自身の昨年1年間の年収(税込み)は、次のうちどの区分に入りますか。(資産収入や年金なども含む)(○は1つだけ)

1	収入はない	12.9
2	250万円未満	45.8
3	250～500万円未満	23.6
4	500～750万円未満	7.5
5	750～1,000万円未満	3.0
6	1,000～1,500万円未満	1.2
7	1,500万円以上	0.2
8	わからない	3.6

問6-10-2 あなたの世帯の昨年1年間の年収(税込み)は、次のうちどの区分に入りますか。(資産収入や年金なども含む)(○は1つだけ)

1	収入はない	0.7
2	250万円未満	13.8
3	250～500万円未満	28.8
4	500～750万円未満	17.1
5	750～1,000万円未満	10.4
6	1,000～1,500万円未満	4.9
7	1,500万円以上	1.7
8	わからない	19.5

問 6－11 あなた自身の現在の金融資産額（預貯金や保険など）は、次のうちどの区分に入りますか。

（○は1つだけ）

1	資産はない	18.0
2	250 万円未満	27.8
3	250～500 万円未満	12.3
4	500～750 万円未満	5.6
5	750～1,000 万円未満	4.0
6	1,000～1,500 万円未満	4.5
7	1,500～2,000 万円未満	2.3
8	2,000 万円以上	4.6
9	わからない	16.2

問 6－12 あなた自身の現在の借入れ額（住宅ローンを含む）は、次のうちどの区分に入りますか。

（○は1つだけ）

1	借入れはない	73.3
2	100 万円未満	4.6
3	100～250 万円未満	2.4
4	250～500 万円未満	1.5
5	500～750 万円未満	1.0
6	750～1,000 万円未満	1.2
7	1,000～1,500 万円未満	2.6
8	1,500～2,000 万円未満	1.8
9	2,000 万円以上	3.2
10	わからない	4.4

問 6－13 あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。（○は1つだけ）

1	持ち家（分譲マンションを含む）	78.8
2	借家（社宅等を含む）	18.9
3	その他（ ）	1.1

問 6－14 失礼ですが、あなたの最終学歴（現在就学中の場合は、その学校）は次のうちどの区分に入りますか。（○は1つだけ）

1	義務教育のみ	14.6
2	高等学校	40.5
3	専門学校	11.0
4	短大・高専	10.4

5	大学	21.1
6	大学院	1.6
7	予備校	0.1
8	その他（	） 0.4

問6-15 あなたは、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどを通じて、金融・経済情報をどのくらいみていますか。（○は1つだけ）

1	ほぼ毎日	36.9
2	週に1回程度	17.0
3	月に1回程度	7.5
4	上記より少ない頻度	15.8
5	まったくみない	22.1
6	その他（	） 0.5

問6-16 あなたは、インターネットをどのくらい使用しますか。（○は1つだけ）

1	毎日使う	37.6
2	週に1回は使う	14.7
3	月に1回は使う	3.4
4	上記より少ない頻度で使う	2.6
5	インターネットに接続できる環境ではあるが、まったく使わない	17.2
6	インターネットに接続できる環境がない	21.9
7	その他（	） 1.3

以上で全質問が終了です。

長時間にわたり、どうもありがとうございました。